

建築と社會

206

206

January

1955

36

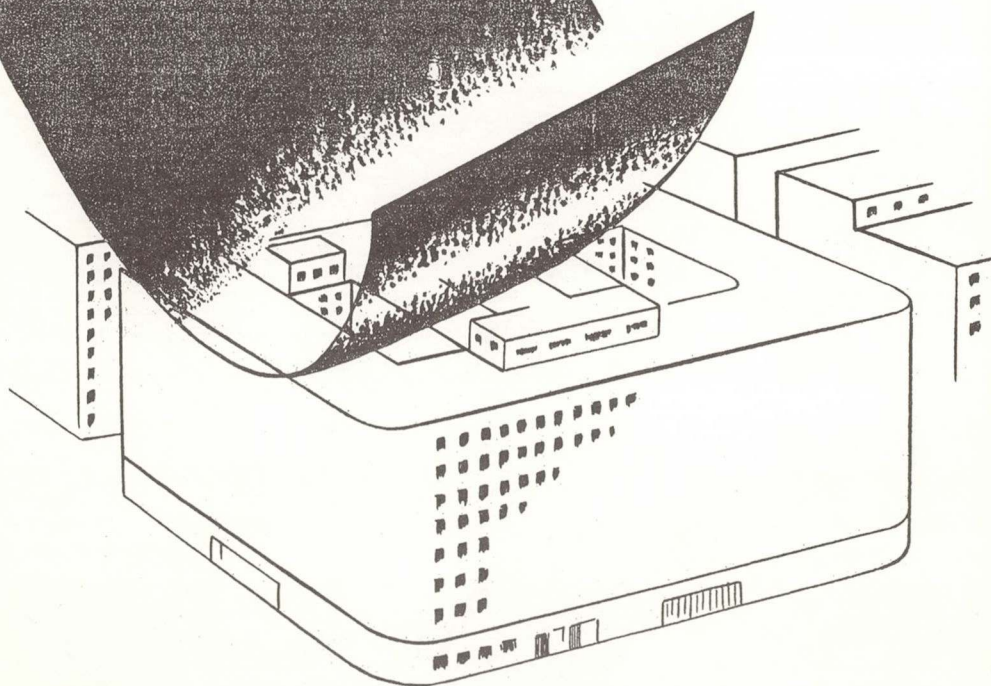
日本建築協会

The Architectural Association of Japan



三星の
永久に腐らぬ 防水材料
**石綿ギルソイド
ルーフィング**

専売特許
第 193114 号



三星アスファルトタイルの

田島応用化工株式会社

東京 足立区小台 633 TEL 王子(91)代表 5171

大阪 西区京町堀上通 1-14 TEL 土佐堀(44)代表 0809

大阪市西成区役所見学会

標記見学会を、大阪市建築局の御幹旋により下記要項で開催致します。多数お繰合せ御参加下さい。

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| 1. 日 時 | 2月12日(土) 午後2時集合 |
| 1. 集合場所 | 西成区役所玄関前(市バス大阪駅及難波より西住之江行乗車西成区役所前下車) |
| 1. 申込メ切 | 2月10日迄会費(50円)を添え申込みのこと |

・建物概記・

設計監理	大 阪 市 建 築 局		
施 工	株式会社 奥 村 組		
着 工	昭和29年3月10日		
竣 工	昭和29年11月26日		
規 模	基礎後掘割栗石一部布地形、鉄筋コンクリート造陸屋根三階建地階及塔屋付		
	建築面積	386坪	延面積 1,237坪 軒高、建築地盤線—パラベット上端迄15,20m
	最高部	26,60m	

本区役所は、大阪市がモデル区役所として漸新な設計と施設を誇っている建物であります。

・白 鶴・酒 蔵 見 学 会

離御影郷に創業以来200年の歴史を有する、銘酒「白鶴」の本店二号酒蔵を、株式会社竹中工務店の御幹旋により、本会兵庫支部と共催下記に依り見学することになりました。下記要項御参照の上御申込下さい。

- | | |
|----------|------------------------------------|
| 1. 日 時 | 2月16日(水) 午後1時半・晴雨不論(時間厳守) |
| 1. 集 合 所 | 「白鶴」本店正門前(阪神電車住吉駅下車南へ約5分) |
| 1. 会 費 | 150円(準備の都合上前以て会費と共に申込みのこと) |
| 1. 申込メ切 | 14日迄でメ切りますが、予定人員(60名)に達した時先着メ切ります。 |

白鶴本店式号蔵工事概記

設計施工	株式会社 竹中工務店		
建築面積	建坪	433坪	延坪 1,741坪
規 模	鉄筋コンクリート造、地上6階塔屋付、屋上パラベット迄64尺、最高 100尺		
着 工	昭和27年4月21日	竣工	昭和27年11月30日

見学は酒造状況及自動罎詰作業の現況。

埼玉ビルディング見学会

標記新築ビルディング見学会を(株)大林組の御幹旋で開催することになりました。多数御参加をお待ちしております。

- | | |
|-------|----------------------------------|
| 日 時 | 2月22日(火) 午後2時集合 |
| 集 合 所 | 埼玉ビル正面玄関(大阪市東区淡路町4丁目・御堂筋、ガスビル東南) |
| メ 切 | 20日迄会費(50円)を添え申込のこと。 |

・建物概記・

設計監理	池田建築事務所 日建設計工務株式会社		
施 工	株式会社 大 林 組		
着 工	昭和28年11月20日		
竣 工	昭和30年2月20日		
規 模	鉄筋コンクリートベタ基礎、鉄骨鉄筋コンクリート造地下2階地上9階(パラベット軒高)31m 外装 1階花崗岩貼、2階以上タイル貼、建築面積 162.5坪 延面積 2,102.5坪		

建築と社會

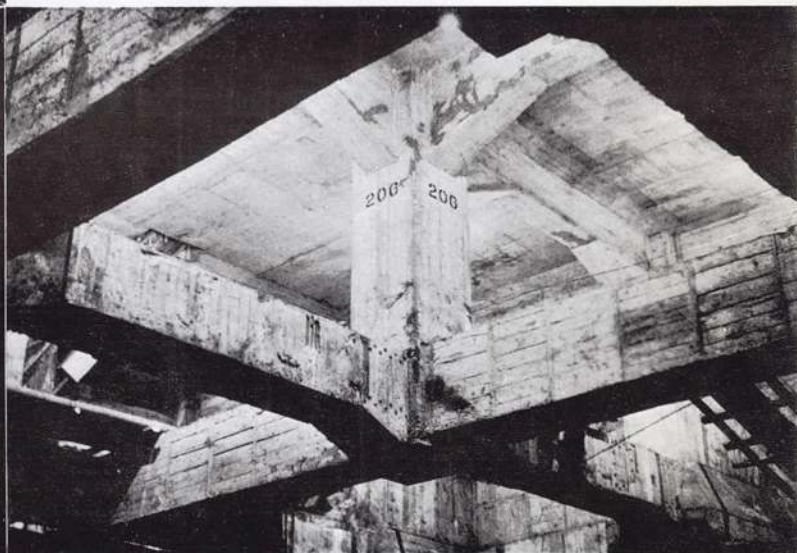
1

表紙
写真

撮影

竹中工務店
浜田 昭二

写真は竹中工務店内部のクラブ
竹友サロンにおける写真コンテ
ストの特賞に入選したもので、
潜函工事の基礎梁の下から見上
げたところである



作品・作風

1. ゲリー・ビル
2. 兵庫県水産会館
3. 大沢商会
4. 船岡町役場

CONTENTS for JANUARY 1955

日本における建築的伝統特集

- 民族的伝統と国民的伝統……………西山 卯三…15
- 民家史の一課題……………白木 小三郎…20
- 桂離宮と農家……………外村 吉之介…23
- 西洋の建築的伝統について……………森 田 慶一…24

建築の眼……………14

紫煙室 建築・音楽……………竹内 成夫…26

技術講座

- シャレーの応力の話……………横北 尾村 義貫 修…27

会報……………33

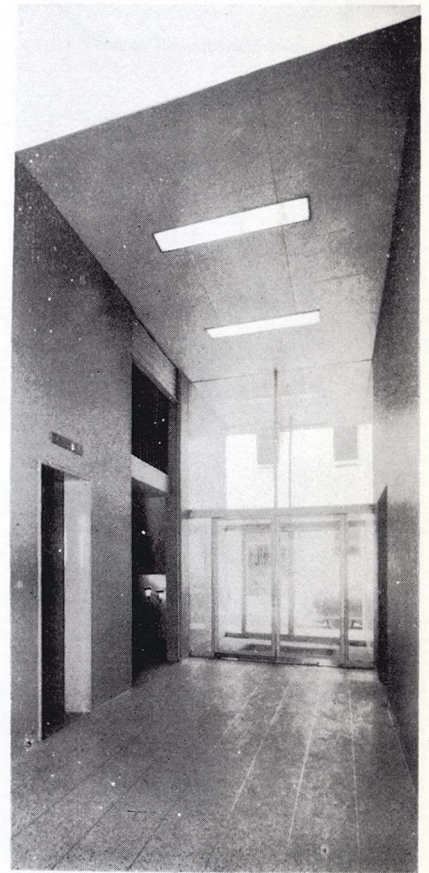
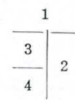
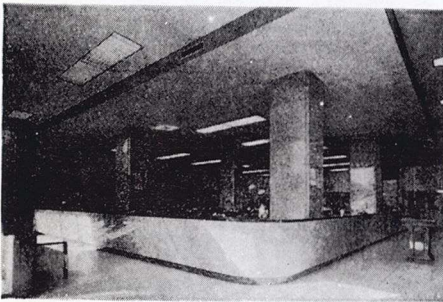
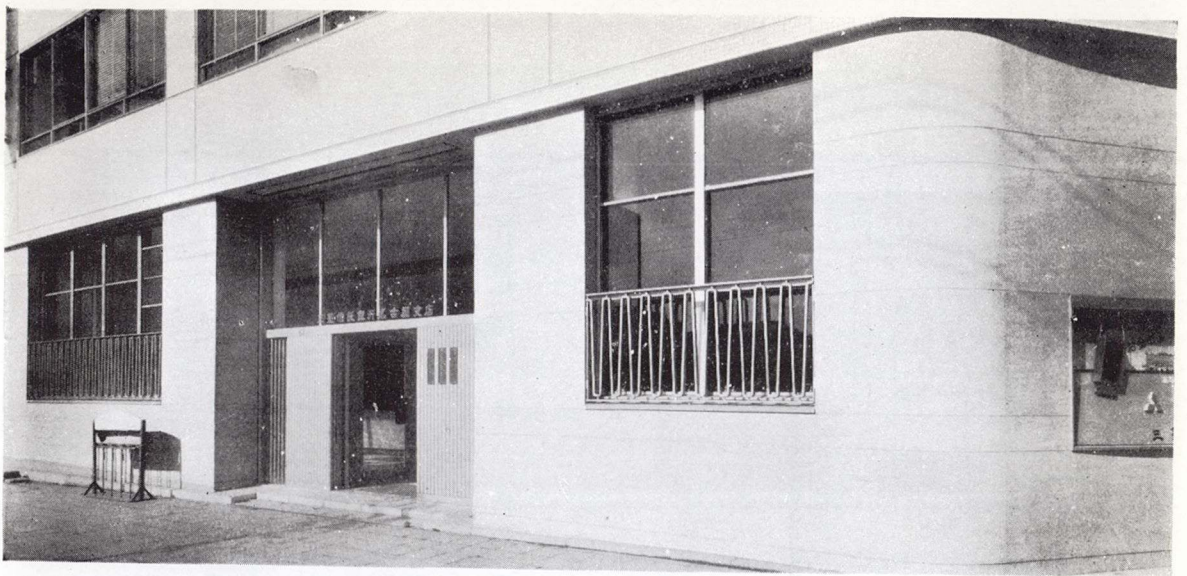
コンクリート技能講習会……………34

会告……………36



Green Building

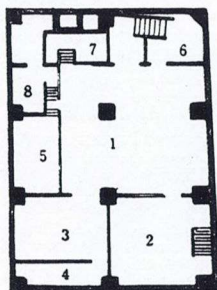
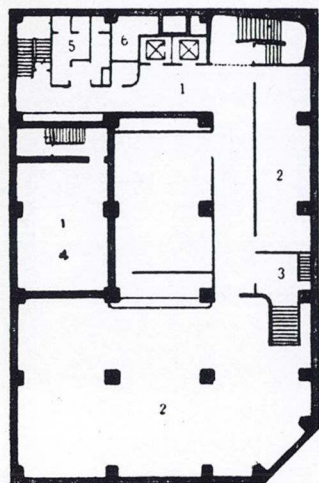
設計 株式会社竹中工務店
施設



1. 銀行入口詳細
2. 玄関エレベーターホール
3. 1階銀行客溜
4. 1階銀行客溜

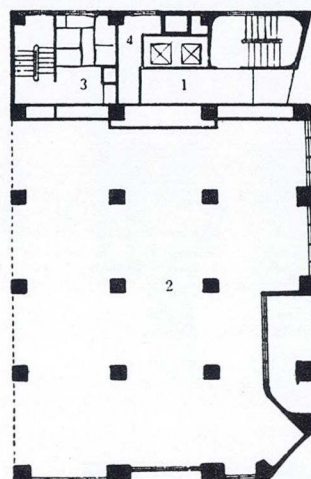
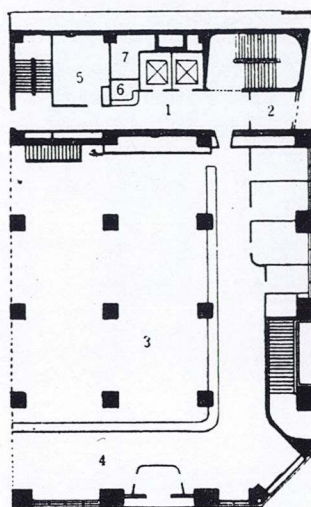
地1階

1. エレベーターホール 2. 貸室 3. ホール
4. 銀行書庫 5. 化粧室 6. クーラーヒーター室



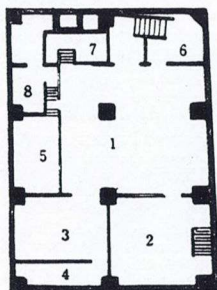
1 階

1. エレベーターホール 2. ビル玄関 3. 銀行営業
室 4. 客溜 5. 喫茶室 6. 売店 7. クーラーヒ
ーター室



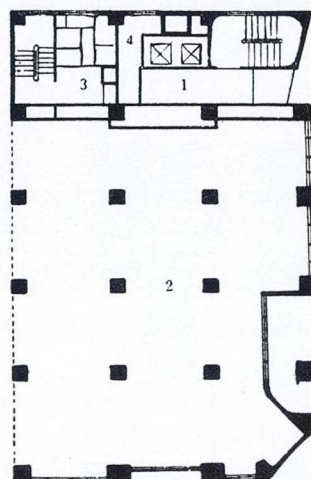
地2階

1. 機械室 2. 変電機室 3. 発電機室 4. 蓄電池
室 5. ポンプ室 6. 石炭庫 7. 焼却室 8. 洗面所



中2階

1. エレベーターホール上部吹抜 2. 銀行営業室上部
吹抜 3. 守衛溜り 4. クーラーヒーター室

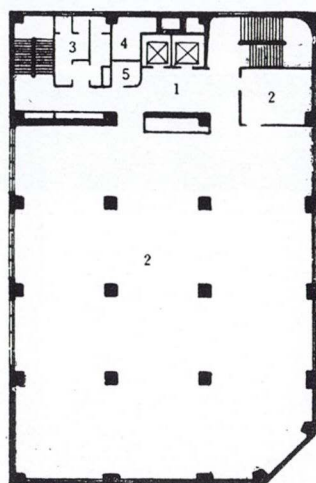
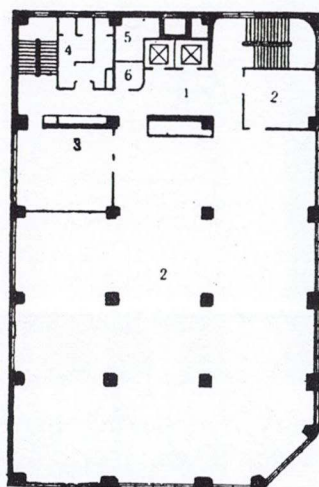


グリーンビルディング建築概要

位	置	名古屋市中区広小路通り2ノ4
構	造	鉄骨鉄筋コンクリート造
階	数	地上8階 地下2階 塔屋3階
高	サ	軒高102.30尺 最高々133.30尺
敷地面積		193.78坪
着	工	昭和28年11月
竣	工	昭和29年9月15日

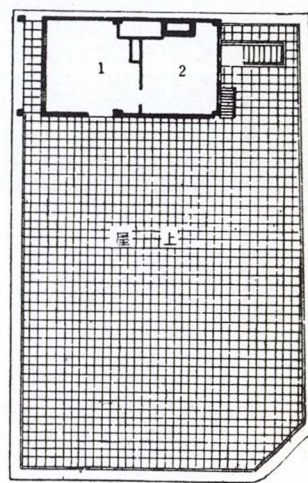
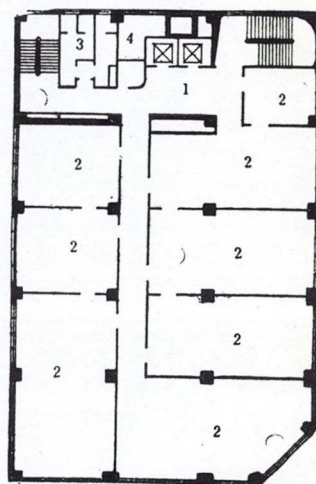
2 階

1. エレベーターホール 2. 貸事務室 3. ビル事務室
4. 化粧室 5. クーラーヒーター室 6. 湯沸室



7～8 階

1. エレベーターホール 2. 貸事務室 3. 化粧室
4. クーラーヒーター室 5. 湯沸場



3～6 階

1. エレベーターホール 2. 貸事務室 3. 化粧室
4. クーラーヒーター室 5. 湯沸場

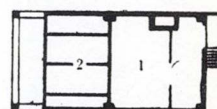
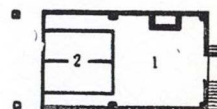
屋1階

1. 冷凍機械室
2. エレベーター機械室

建 物 面 積					
地 2	73.81坪	機 械 室	6	182.31	〃
地 1	182.56	貸 室	7	182.31	〃
1	172.82	信託銀行	8	182.31	〃
中 2	27.64	ビル守衛溜	屋 1	22.47	機 械 室
2	182.31	貸事務室	屋 2	22.47	〃
3	182.31	〃	屋 3	15.51	〃
4	182.31	〃	合計	1,793.45	
5	182.31	〃			

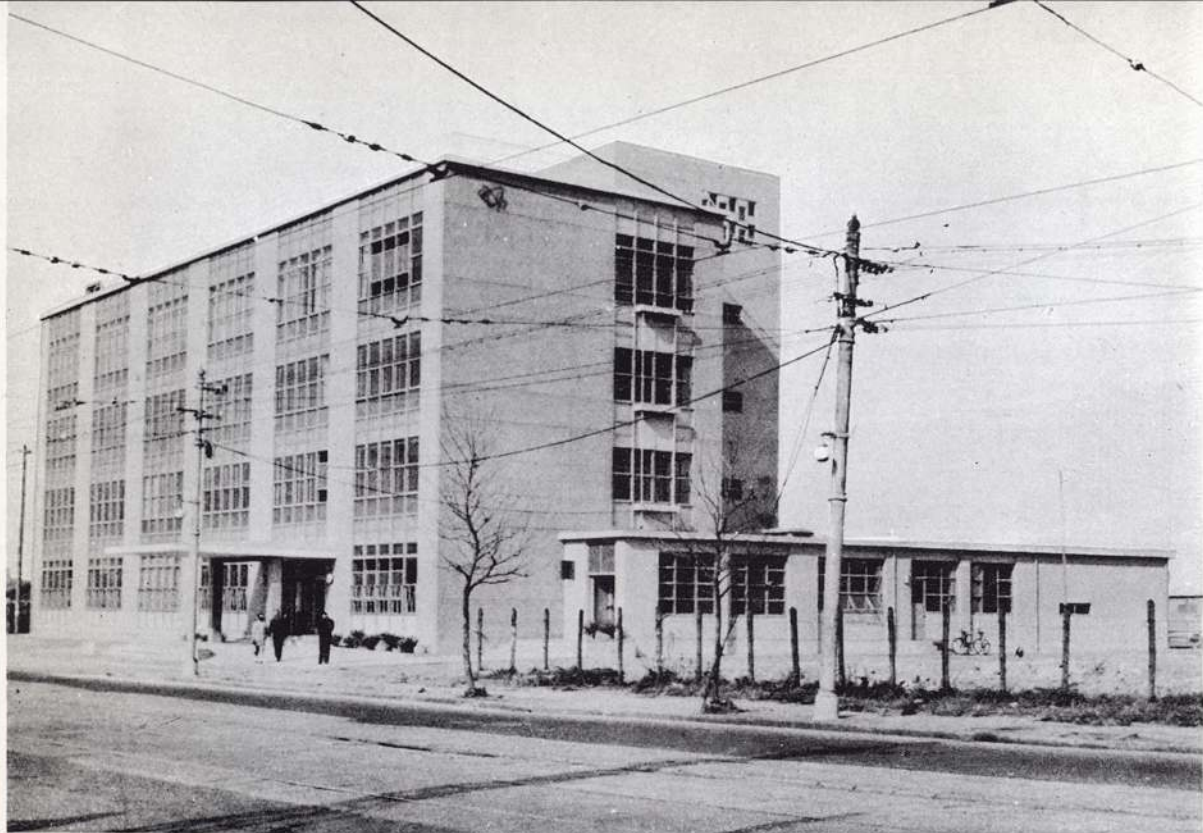
屋3階

1. フアン室
2. クーリングタワー



1. フィルター室
2. クーリングタワー

屋2階



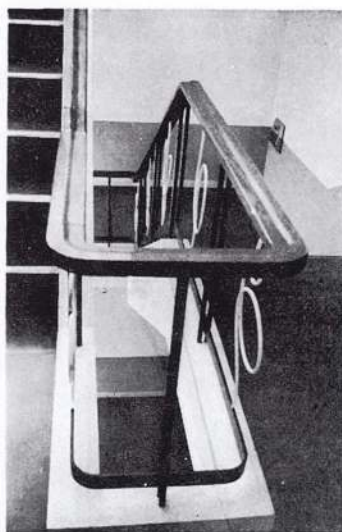
兵庫県水産会館

設計監理 兵庫県営繕課
施工 竹中工務店

建築概要

建築地 神戸市兵庫区新在家通123番地
敷地面積 676.00坪
建築面積 建坪 263.675坪 延坪 735.472坪
構造 鉄筋コンクリート造
階数 地上4階、塔屋付
軒高 地盤面上 16.37^M 最高部 19.53^M
着工 昭和28年12月24日
竣工 昭和29年10月28日

階別	坪数
塔屋	18.077坪
4階	151.24 〃
3階	151.24 〃
2階	151.24 〃
1階	263.675 〃
計	735.472坪





設 計 兵 庫 県 営 繕 課
 企 画 神 田 省 三、中 茂
 設 計 光 安 義 光、信 川 好 弘
 施 工 株 式 会 社 竹 中 工 務 店
 近 畿 電 気 工 事 株 式 会 社
 株 式 会 社 大 阪 電 気 商 会
 大 阪 煖 房 商 会
 大 阪 ガ ス 株 式 会 社
 沖 電 気 工 事 株 式 会 社

本会館は兵庫県下の漁業組合事務所、倉庫、組合員の宿泊設備、食堂、大小会議室を一つに包含したものであります。設計の基本方針として、漁民の親しみ易い近代的な気分のする建物とすることを念頭に置きました。

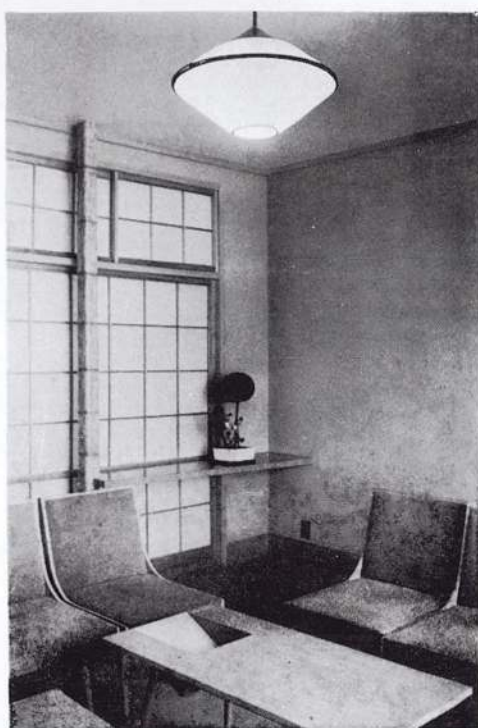


附帯設備、家具一切を含めて、坪当り9万円という低い工事費を補うために、建築材料の仕上り、塗装、家具、電気器具等に目にふれるところには特に留意をし、空間感情の醸成に意を払いました。



暖房については、昼間約4時間位の採暖のためにボイラー設置は不利と考え、ガスに頼ることにしました。

この建物が当初の期待通りにできあがつたのは上掲の各業者の熱意の総結集であつて、ここに深謝する次第であります。 (Y・M記)



1 階

- | | |
|----------|-----------|
| 1 ポーチ | 13 湯沸室 |
| 2 玄関 | 14 食堂 |
| 3 ホール | 15 厨房 |
| 4 北談話室 | 16 事務及仕込室 |
| 5 南々 | 17 浴室 |
| 6 宿直室 | 18 小使室 |
| 7 電話交換室 | 19 電気室 |
| 8 事務室 | 20 ポンプ室 |
| 9 局長室 | 21 倉庫 |
| 10 暗室 | 22 車庫 |
| 11 納品庫 | 23 浄化槽 |
| 12 便所化粧室 | 24 中庭 |

2 階

- | | |
|-------|---------|
| 1 廊下 | 6 出納事務室 |
| 2 事務室 | 7 宿直室 |
| 3 応接室 | 8 金庫室 |
| 4 会長室 | 9 便所化粧室 |
| 5 客溜 | 10 湯沸室 |

3 階

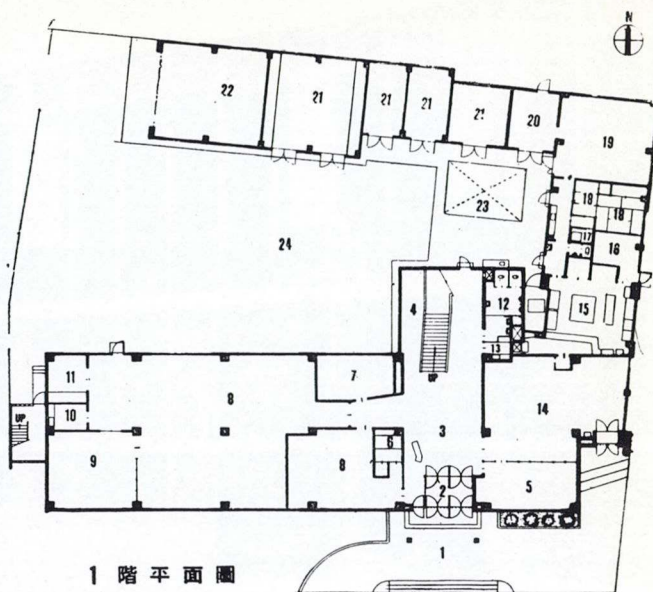
- | | |
|-------|----------|
| 1 廊下 | 8 納戸 |
| 2 宿泊室 | 9 応接室 |
| 3 廊下 | 10 女中室 |
| 4 縁側 | 11 配膳室 |
| 5 洗面所 | 12 事務室 |
| 6 浴室 | 13 便所化粧室 |
| 7 脱衣室 | 14 湯沸室 |

4 階

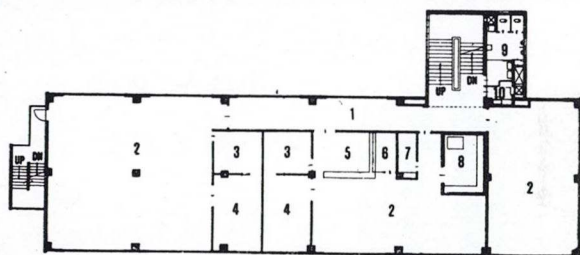
- | |
|---------|
| 1 ホール |
| 2 大会議室 |
| 3 ステージ |
| 4 小会議室 |
| 5 便所化粧室 |
| 6 湯沸室 |

屋 階

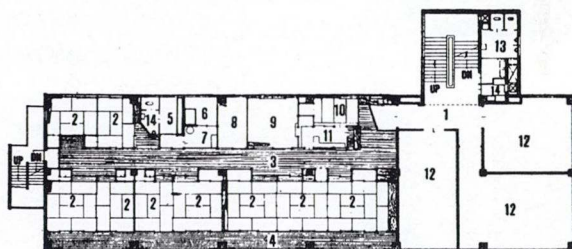
- | |
|-------|
| 1 洗濯室 |
| 2 水槽室 |
| 3 物干場 |



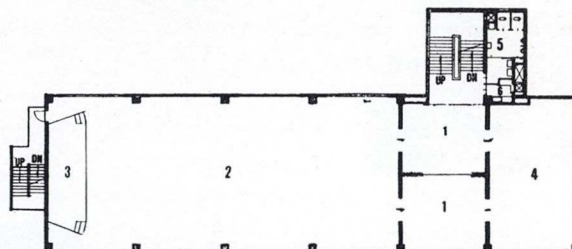
1 階平面図



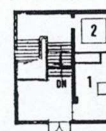
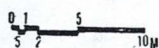
2 階平面図



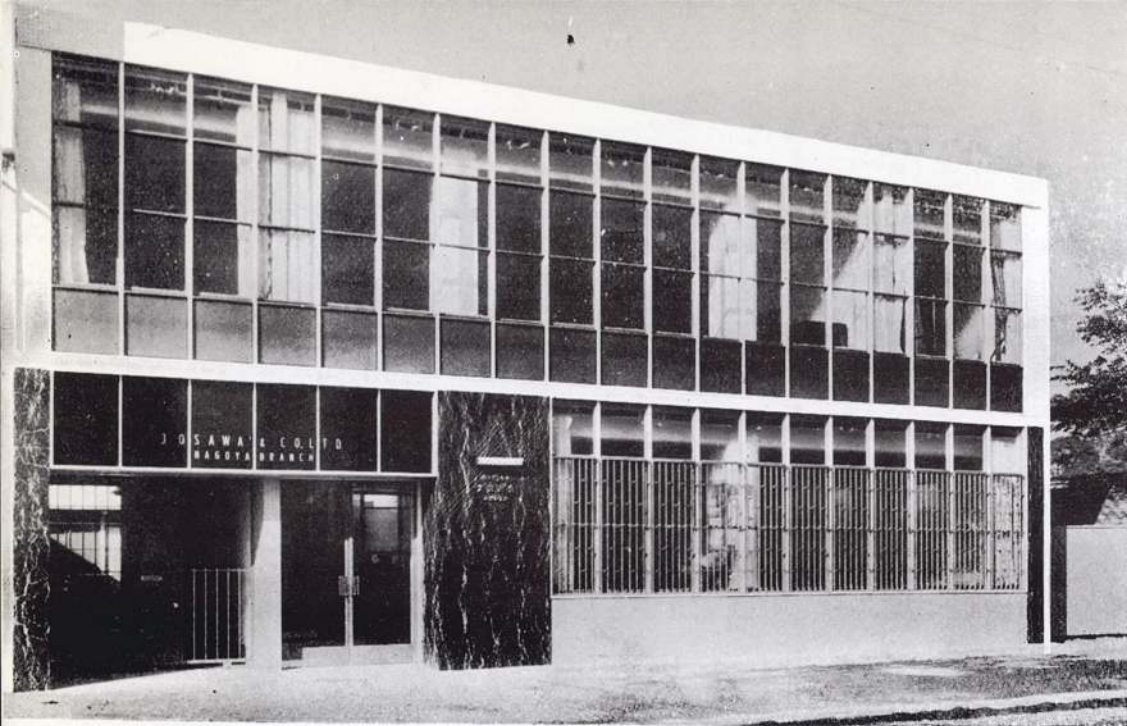
3 階平面図



4 階平面図



屋階平面図



株式会社大沢商会名古屋支店

設計施工 清水建設 K.K 名古屋支店

設計担当 中根 富貴三、加藤 啓治

現場担当 井上 道夫

位 置 名古屋市中区本重町1丁目13番地

敷地面積 111,030坪

建物面積 建坪 76,116坪

延坪 134,741坪

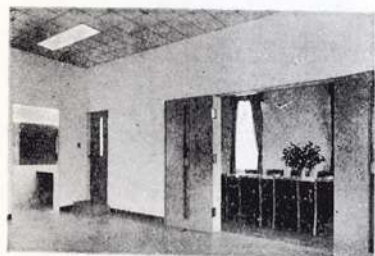
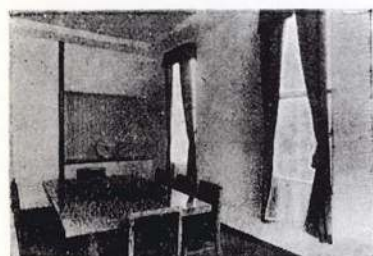
構造概要 鉄筋コンクリート造二階建、

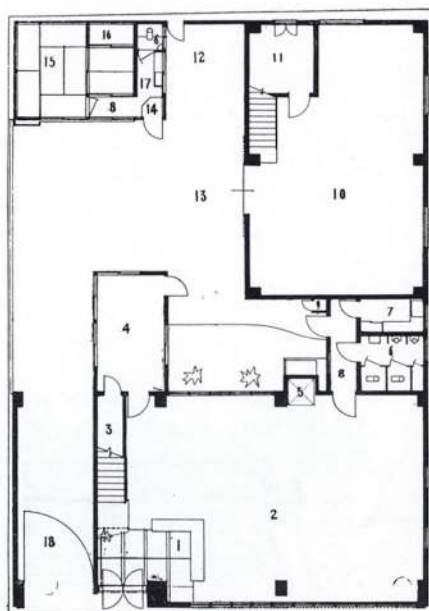
一部附属屋木造平家建

外部仕上 東面及南、北面一部モザイクタイル張り、東面
スパンドレル、スチール板メラミンラツカー焼
付、玄関廻り蛇紋石張り

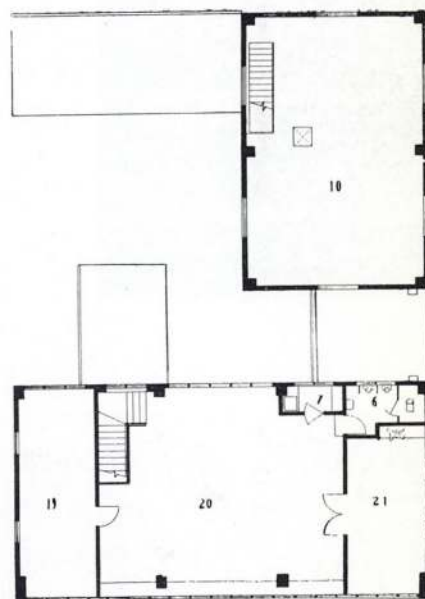
裏廻りモルタル塗り、樹脂系塗料仕上

内部仕上 各室床アスタイル張り、天井アコステックテッ
クス張り、壁プラスター塗り、支店長室壁、栄
壁塗り、倉庫廻りモルタル塗り





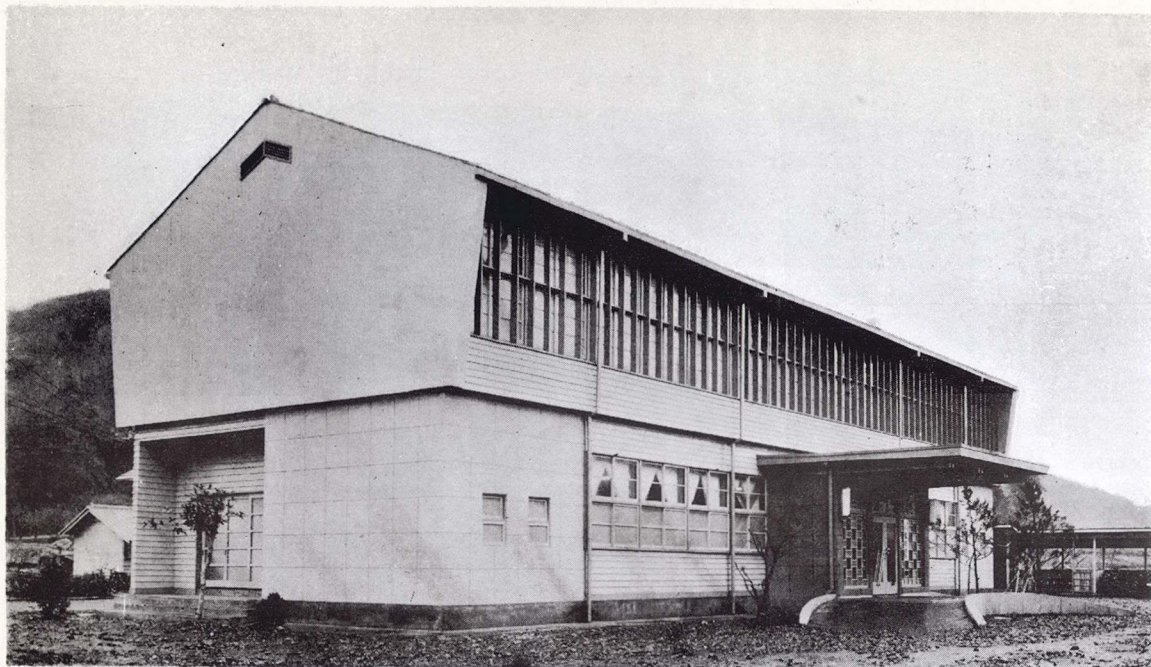
1 階



2 階



1. 客 溜 2. 1階事務室 3. 物 入 4. 倉庫事務室 5. 金庫置場 6. 便 所 7. 湯沸場 8. 廊 下
 9. 掃除具入 10. 倉 庫 11. 重要品倉庫 12. 空箱積場 13. 荷造場 14. 踏 込 15. 小使室 16. 押 入
 17. 台 所 18. 通 路 19. 支配人室 20. 2階事務室 21. 会議室

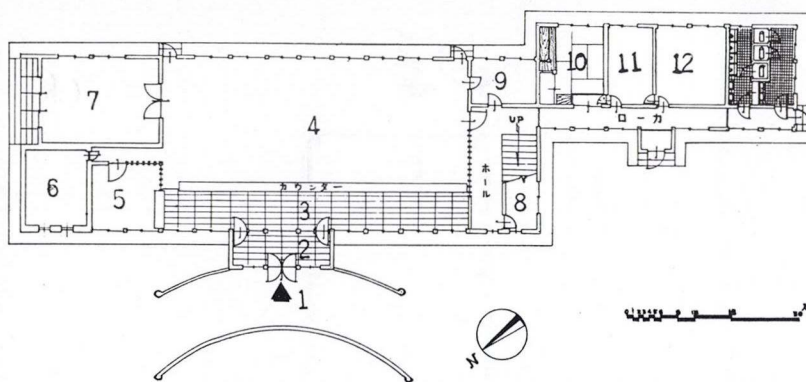


船岡町役場庁舎

設計 監理
N A U 鳥取建築研究所

担当 上村 一
協働 蓮 仏 享
石 本 圭 助

施 工
八 千 代 建 設 K . K
中 国 電 気 工 事 K . K



1 階

所在地 鳥取県八頭郡船岡町

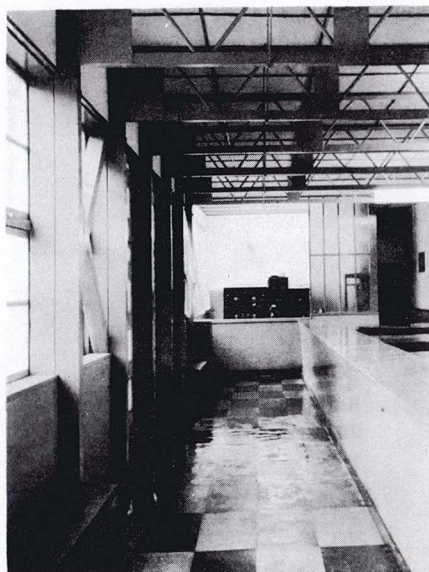
建築面積 本館 153.0坪
附属舎 33.5坪
合計 186.5坪

工期 着工 昭和29年3月10日
竣工 昭和29年7月10日

工費 7,097,000.00

主要構造 本館 木造厚型スレート葺二階建
附属舎 木造瓦葺（亜鉛鍍鉄板）平家建

外装 下見板張り油性ペンキ塗仕上げ,
二階前面（西北面）開口部に西陽除けの為整型
ルーヴァー（木製）を取付けた。



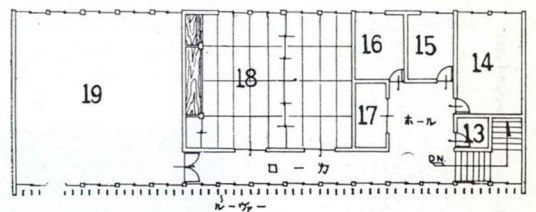


(1 階)

- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 1. ポーチ | 2. 玄関 | 3. 客溜 | 4. 事務室 |
| 5. 出納室 | 6. 書庫 | 7. 町長室 | 8. 印刷室 |
| 9. 応接室 | 10. 宿直室 | 11. 厨房 | 12. 食堂 |

(2 階)

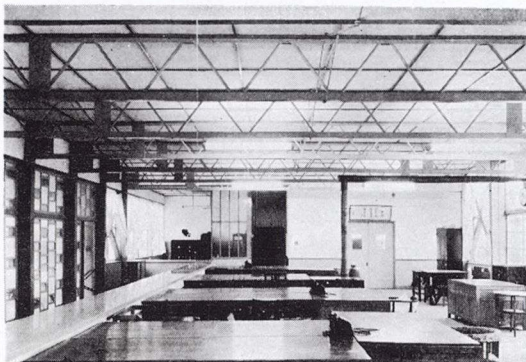
- | | | | |
|--------|---------|----------|--------|
| 13. 暗室 | 11. 図書室 | 15. 議員控室 | 16. 同左 |
| 17. 物入 | 18. 修養室 | 19. 議場 | |



2 階

内 部 仕 上

- | | |
|--------|-----------------|
| 各 室 共 | 床、檜縁甲板張 |
| | 壁、木摺漆喰塗仕上 |
| | 天井、ハードテックス |
| 客 溜 | カウンター、腰巾木共、テラゾー |
| | 床、人造石研出し真鍮目地入 |
| 町長室、議場 | 床、檜縁甲板張 |
| | 壁、パルポイド仕上 |
| | 天井、ハードテックス |



鳥取県船岡町役場庁舎

船岡町は鳥取から国鉄につて数十分、伯耆線から若桜の谷へ少し入った所にある。八頭郡の中心の町である。最近町村合併をして大きくなった。新しい町役場が建てられる事になり、地元の有力者が、在来顔や地盤でマンネリの設計でなく、有能な建築家に依頼してみようと動いた結果、丁度52年末ごろから鳥取在住の若い建築家達で動き出していた NAUT (新日本建築家集団鳥取支部) の人たちが引うけることになった。設計は数人の会員の共同作業で行われ、田舎の町にはめづらしい斬新な木造に鉄骨の合成構造や造形がとり入れられた。単に設計だけでなく、建設にも地元の大工や左官やさんたちが手間を一手引うけるという新しい請負方式で、働く人の意欲的な労働で53年8月に完成した。完成後県下でも評判になり、町役場など新築しようとする所から見学者も続々と来、古い無感覚な旧套からぬけ出して農村に生活に即した建築をつくり出そうとする気運に大きな息吹きをあたえている。またこの工事の中の人たちのまじめな努力が買われて、農業倉庫をコンクリート建てつくる工事や、台所改善などにも相談をもちかけられ、農村での建築家の現地と結びついた活動のしかたの新らしいスタイルをつくり出す機縁ともなった。そういう意味で、この建物は出来上っている建物以上の意味をもつもののだといえる。(西山記)

設計のスタンドプレイ

「建築は、それを使う人の為に造られるものである」こんな命題を今頃持出すと、釈迦に説法する気かと開き直られるかも知れないが、開き直りたいのはこちらの方である。最近のいわゆる新建築の中には、11月号のこの欄にも指摘されたように、屋外より気候条件の悪くなる総ガラス張りの建築があつたり、オリエンテーションに無関係に、円形の病棟や学校が造られているのを見ると、もう一度、上の命題を持出したくなる。円形の病棟がよいと思う建築家は、一度自分でその円形の廊下をグルグルと2、3回まわつて見るとよい。ついでに手押車を壁にぶつからないように押して歩くと効果は更によい。また円形の学校の中の扇形の教室で、窓を背にした生徒のシルエットに向つて講義をして見ると、明暗のコントラストが、どれ程目を疲れさせるかが判るだろう。

こんな設計をするのは、建築家の不勉強だと思つていたが、最近やつとその真意が判つてきたような気がする。結果が良からうが悪からうが、とにかく他人のやらなかつた形を設計して、大向を喰らせようというスタンドプレイに過ぎないのじゃないだろうか。建築家の良心を別にすれば、迷惑のかかるのは、それらの建築を使う人々だけである点が尙更困つたことである。(Y)

けんちくのめ・担当(五十音順)：小川正・西山卯三

若い人の元気

広大な古市団地に住みよい環境をつくり出すため、変化にみちた建物配置を計画した久米権九郎氏の作品を、実地見学して討議する住宅研究会の会合が昨年の11月27日に現地であつた。曲線をつかつた道路にさまざまな角度に列んだブロックの配置に少々キモを抜かれた(?)か、設計者の臨席に敬意を表して(?)か、あまり手きびしい発言がなかつたが、大阪市の技師達が設計をまかされた場合このような自由な計画ができるかという問には、市側の人は何しろこんな大団地はめずらしいのでと答えをにごしていった。多分出来ないのではない。「若いものはもつと元気を出したらどうか」という府の氏の発言にも大笑いだけで答え切れないチグハグな空気があつた。のびのびと計画するというセンスを若い建築家の卵たちからうばつていくものは何であろうか。それは久米さんなら出来るという事とウラハラの関係にあるような気がする。こんな重くしい空気をうちやぶつていく力こそ、住宅研究会に期待すべきものではなからうか。(U)

建 築 の 眼

重量感の相異

僕はこんなことを考えてみた。同じinternationalな、装飾のない近代建築でも、日本のそれと、外国のそれとでは一見してわかるほど感じがちがう。もちろんその大きな理由は荷重条件の相異であろう。大地震、颱風による水平力が構造に欧米と比較ならぬ「ふんばり」を要求するからであろう。これは素直に立つている立像と脚を開いてemergencyに備えて立つた姿との相異はあろう。しかしなおそれ以上の理由があるにちがいない。なぜならば、こころみに同じ荷重条件で設計された日本における日本人によるものと、外国人によるものと較べてみたまえ。僕は何んとなしに違つた感じを、とくに構造感というか量感といったものに受けとるのだが。その理由として僕はそれぞれの伝統的な構造材料としての木と石の特性に基源を求めたのである。1つはその重量の相異にある。石は木に千倍する比重をもつ。

重量に対する感じ方にちがひがありはしまいかということ。もう一つは木のもたらす寸法のわりだし方、と石のそれとの相異があると思う。後の理由ももつと言及したいのだが、今回の眼でふれよう。

(G)

雑誌の型

私が愛読している雑誌に「英語青年」がある。この雑誌は日本の商業的雑誌のうちもつとも寿命の長いものの一つで、昨年の12月号で第100巻第12号(総号1270号)となつてゐる。簡素な表紙といい、組方といい十年一日といたい二十年、三十年同一の方針で編集され、しかもその清新さはつねに青年Rising Generationの意気を持つてゐる。事英語に関することなれば、最高権威の論文があり、訳註があり、和文英訳の欄ありで、新刊批評は一書に対し広いスペースをとつて厳正なる批判を下すし、英語界の人々の消息は令息の病氣まで出ている。バックナンバーをみればその当時の英語学の内外の事情がはつきりとわかる。喜安進太郎氏の鶴沼通信、福原麟太郎氏の片々録はエッセイ文学の随一のものである。遺憾ながらわが建築界には、この「英語青年」級に達する雑誌は一つもない。この原因はいずこにあるのであろうか。一考の価値あるように思う。(J)

民族的伝統と国民的建築

西山卯三

1. 「伝統」とは？

最近、多くの芸術の分野で民族的伝統の問題がとりあげられている。建築の領域でも、54年春の国際建築科学生会議の議題に「現代建築と国民的伝統」という問題がとりあげられたのを機会に、方々でこうしたテーマの討議が行われた。またグロピウス教授訪日を機会に、かつてタウト来日を契機にまきおこつた桂離宮・伊勢神宮再検の旋風にもいた日本のなものをふりかえつてみる気運が一部に高められたし、さらにまた世界を風びしている近代建築の中に日本の伝統が重要な役割を果たしている、ニューヨークの近代美術館では純日本風の建物が人気を博しているといった風なとりあげ方を通じて、この問題は興味を中心になつてきている。

「建築に於ける国民的伝統とはどんなものか」というテーマを中心に、京都大学でも大分前に教授と学生を交えた討論会がもたれたことがあつた。

伝統とは何か。特に建築の造形の面、形にあらわれた建築的解決の共通点、形に対する民族的な感情、形の共通言語などに関連して多くの論議がなされた。伝統とは「在来からあるもの」だ。ところが日本の建築は源を正すと外来のものが多い。そこで国民的伝統というとき明治以後の洋風建築はオミットしたい。どうもそれからあとのものはまずい。木造ならどうかやつていけたのだが、これはメイゾンリの伝統がないからだ。外来文化の理解の浅さ、模倣のまずさ、施工の拙さもあろうけれど、それらをこえて、こういうまずさの中にも日本的なものがありそうだ。いや何か宿命的な性格というものがあるのでこないか。日本の建築を特色づける個性、民族性といおうか、そんなものがありそうだ。それは時間がたねばわからぬかもしれないが、感覚のいい人なら感得することができないのではないかと——などという議論がつづいた。

日本的なもの＝民族的伝統とは、結局「古くから一貫してみられる共通性」「歴史的なもの」「日本にしかないもの」といった発言がつよかつた。

だが伝統とは単に「昔からあつたもの」であろうか。あるいは「他所にはない特殊なもの」といつたものだろう

うか。そうではない。

伝統とは、我々の祖先、わが民族、そして更に人類全体がつくりあげた過去の遺産の中で、私たちがうけついで将来に発展させていかねばならない経験の精華である。なかい経験の蓄積の中から廻りおこし私たちのこれからの活動の中に生かされていかねばならぬ積極的なものである。決して博物館の陳列をながめて分類するための特徴点といったものではない。

2. 民族的伝統

その伝統がなぜ「民族的」という風に限定されるのか？ それはまず第一に今日我々が対決している現実の課題が、決して無国籍の建築ではなくて、民族的な課題であるからだ。またこの課題に対決する我々の経験の蓄積自体もまた我々の歴史につながる民族的なものであるからだ。

国民の要求にこたえるものとしてつくられる建築、生活に完全に密着する最善の答案を出そうとする建築が、その国民の生活＝文化の独得の色あいを自ら反映するのは当然である。だがそればかりではない。現在我々の生活が民族的な危機におこまれている以上、それと無関係な建築などはあり得ず、その存立の社会的基礎を捨象した「機能」や「近代的合理の精神」だけで建築ができていると考えたりしたら大まちがいであろう。

ところで近代国家の誕生と共に国内の封建的な割拠がとりさられ、言語・風俗・習慣を共通し、一つの政治経済体制で結びつけられた国が民族的伝統をつくりだす条件であつたことはたしかである。しかしその国の中で、国民が多くの階層に分れ、諸階層がそれぞれ異つた問題に直面している時、その分化に対応していくつかの伝統の流れが生じることにもみのがせない。これを見過して支配者のそれを代表的なもの、或いは民族的な伝統としておしつけるならば、それはファシズムに通ずるであろう。「日本的なもの」について我々はその様な誤りをおかして来たみじめな経験をもっている。かつて我々の先輩はコンクリート建築の上に瓦屋根・鰯尾をのせた国粹建築に、あるいは日本の建築の名のもとに、そういう誤りを犯してきた。過去の建築の中から造形的な標式をかり出

す事に意義を感じていた一部の建築家は、そのようなものに日本の伝統を見つけたと思つたかもしれない。けれども国民大衆は神社や寺院の造形に支配者の示威と威圧を感じただけであろう。これらの形象が国民的なものとして受け入れられるには、それを可能にする基盤——たとえば社寺や宮殿が国民のみじめさを他所にそびえるものでなく、勤労人民大衆の自由につかえる喜びと憩いの場所になるといつた生活の経験を経なければならぬであろう。我々が建築に於ける伝統をつかもうとする時、そこに数々の流れのあることをとめねばならない。茶室や数寄屋建築の洗練に日本的伝統を感じる人もあろう。或は桃山風の豪華さにそれを感じる人もあろう。床の間やアブストラクト生花に、或は畳をしいたコンクリートアパートにそれを感じる人もあろうし、住居と住み方に清潔や簡素を求める住み手たちの積極性にそれを求める人もあろう。大工や左官の手仕事、その熟練と誠実の中に学ぶ人もあるだろう。これらは互に共存し或は対立しているかもしれない。だが、それらは均しくこれを愛して来た国民大衆の手から今もぎとられようとし、或は国民すべてのものとなることをさまたげられている。民族の築き蓄えてきた生活様式はこわされようとしている。この点で数々の流れも共通の敵にぶつかっている。と同時に、我々はまた今までのあたり、新中国の現実にもつつあるように、それらすべてがやがて花さく生活の豊かさの中に結びあわされていくであろうということをも確信している。国民は今大きく民族の独立と生活を守る統一行動に結集しようとしている。こうした動きが決定的となるとき、数々の流れは一つの大きな「民族的伝統」となつて大きくうかび上つてくるであろう。それをみちびく力は、終局的には諸階級の対立を消滅にみちびく労働者階級の力である。我々はすべての階級の伝統を、すべてのそのよきものを自らの中にうけつぎ前進していく勤労人民の力づよい発展の展望をもつ故にこそ、今民族的伝統について確信をもつてかたりうるのではない。

3. 民族の問題として

民族的伝統、所謂日本のなものを、他の世界からとび離れた日本建築の特徴点、あるいは美点として指摘する風がある。このような指摘は無論何ほどか我々の民族的問題の解決に貢献するところがある。けれどもそこに大きな危険が横わつているといわねばならぬ。

一つの危険は、我々が立ち向うべき問題の重点をあやまつた方向にそらせてしまうことだ。外国人が日光や桂離宮を礼讃し、障子やタタミに日本的なものを感じたり指摘してくれるのはよい。この事をさける必要もなければ卑下することもない。だが問題はそれからあとだ。つまりそれを後生大事にふりかざし、トクトクと持ちまわること。みやげもの屋の心理、植民地後進国の根性。

「日本建築の近代建築への寄与」などと大げさに論じあうのもその流れだ。近代建築家の中に案外多いこうしたインフエリオリティ・コンプレックスは、段々こうじると「日本では駄目だ、外国で買つてもらおう」という方向に発展しかねまいし、事実そうなつていく。外国の雑誌にとりあげられるのが大きな名誉になつてくる。何とかして特異性を、「日本的なもの」を出したい。「コンクリート構造に日本の木割に似たプロポーション」を出そうといった努力。——この様なものが、さきにかかげた「伝統」の意味から大きく離れていることは説明するまでもなからう。

今一つの危険は、そうした特徴点を固定したものとして形式的に理解することである。伝統とは、気ままに引ずり出してきて利用してみるといつたスタイルブックのサンプルではない（その様に理解している人も少なからずいるようだが）。ある旅行者が何がしかの特徴をさして「日本的だ」という場合、彼はそれからそういうものを学ぼうとしているのである。それは学ぼうとする側の主體的条件によつて規定されている。それをその条件をぬきにして理解することは全くあやまつている。条件は観者の立場によつて異なり、又刻々に変化もする。それを固定化してみることは伝統の形式的理解であり、「物神化」であり、封建的保守主義に通ずる。

以上2つの偏向は民族的排外主義に利用される危険をもつし、また利用された。

かつて茶室や数寄屋建築に日本的なものを主張し、マス組みの国粋主義をあざわらつた近代建築家達が、遂に日タイ文化会館から大東亜記念堂造物へまでの道をバク進したのはなぜだつたか。そして今再び民族的排外主義のこわれたガラクタを、アジア人をしてアジア人と斗わせるためいそいでとりつくろおうとする手が、片方に近代建築をのせながら外国からのびて来ているのである。

今日、伝統を民族的なものとしてとらえようとするのは、過去の中から「民族的」な既成品をとりだそうというのではなく、我々の当面している建築の闘いが民族的な闘いであるから——その闘いに役だつ武器を過去の中からみつけようとするところにある。だからそれに役立たないガラクタはいくら従来のものであろうと意味がないし、反対に外来のものであつてもこの民族的な闘いに役立つものであれば、民族的な伝統として活かしていかなければならない。

法隆寺という建築がたとえ外来の様式でたてられたものであつても、その中に我々の祖先たちの生活を豊かに美しくしようとする闘いが斗われていた限り、我々はこの建築を民族的伝統のほこらしい記念物とみるだろう。明治の洋風建築の中に、日本を外国の侵略から防ぎ、進んだ外国の技術を学びそれをわがものとしようとした工人たちのエネルギーをみつけたすかぎり、これも亦すばら

しい民族的伝統の表現ではなからうか。

今日我がが当面している情勢はいうまでもなく占領下MSA体制の下で軍国主義復活の逆コースを強制されている。その中で建築技術や建築芸術は国民のものであることをささげられ、この狂暴な行進に奉仕するかたわなものにされようとしている。防衛計画に基いて軍事施設がどんどん建てられている。すばらしい最新の技術装備をもつてビルディングが建ち、快適な「小住宅」が月々の雑誌をにぎわせる。だが国民は敗戦以来の住宅難を軽減することが出来ず、居住状態は悪くなり、その上老朽と災害により破壊が迫っている。こうした中で形の上だけ素晴らしい技術や造形の達成を、心のいたみも感ぜずに建築技術や芸術の発展だとみることにはむづかしい。そういう心でみるならば「近代建築」の露骨な営利性というはらをなしている空虚な反民族性はただちに気づかれよう。また大多数の生活に苦しむ国民大衆は、このようなコースの上に建てられる「立派」な建築を、外国の支配の触手として、バンバン饅頭のくどい口紅と同じ外来文化だと感じている。日本を外国の植民地の位置から独立した平和な国にしたいとねがう人たちは、外来の表情をした近代建築に敵意を感じている。

そのような国民大衆にとっては、外国で「日本的なもの」とみとめられたというレッテルは通用しない。逆輸入で日本的伝統を説得出来る条件は限られてきている。ただ国民の斗いに結合した建設の中にこそ、国民は生々と自らのものを感じとる。国民があらゆる領域で斗っている生活と建設の中で、建築に於ける民族的伝統をほりおこすこと、それが国民に奉仕しようとする建築家の仕事となつて来ている。ということは、建築の伝統を、ただ造形の問題としてみる段階から大きな飛躍がいま要求されていることを意味している。

4. 伝統の根元

我々は、建築的伝統という時、木造建築、瓦屋根、軒の構成、障子、畳や格子といった即物的なものに限らず、もう少し一般化して軸組構造、開放的な空間、畳や建具の規格、「単純さ、謙虚、幾何学的な美しさ」等々といった、主として「形」に関連するものを考えがちである。

このことは、一つには具体的な形の中に伝統の豊かな内容が凝結され、直観的につかみ出されることにもよるが、一つには今まで建築家が自らを造形芸術家として意識していたことから当然である。

明治末期の国会議事堂の様式選択に象徴される「我国将来の建築様式をいかにすべきや」の問題でも、また中日戦争から大太平洋戦争へ突入していつた侵略の先頭をきる建築に熱中した時代でも、建築家の対決しようとしていた課題は支配階級の権力示威の造形の問題であつた。伝統の問題も当然に造形の面に重点があつた。しかし現

在日本国民の当面している建築の問題は、このような形の問題、いわばモニュメンタルな建設への造形の問題ではない。日本国民はいま自らの生活を守りこれを豊かにしていく斗いの中で、占領制度をうちやぶり、平和な世界で経済の自主、政治の独立を求めようとしている。建築家は、単なる示威と享楽のための造形師のワクをこえて、自らの仕事をこの斗いの中で意識しなければならないであろう。

このような観点から我々が民族的伝統をつかもうとするならば眼は建築の造形よりももつと深い建築の「根」に——国民の生活、建築の生産そのもの、労働や生活の中に蓄積され体現されているものに、向けられよう。

過去の歴史の中に蓄積され将来に発展させられていく遺産——それは単に造形上の遺産だけでなく、生活の中に蓄えられた慣習、英知としての遺産もあるし、それらの整理され系統化された理論としての遺産もある。我々が今つかもうとする伝統とはこれらすべてを含まねばならぬ。新しい課題に直面している建築家は、これらの遺産を、謙虚な自己改造ときびしい問題意識とをもつて学び、評価しなおさなければならない。

伝統と英知の洗れの一つは国民の生活そのものの中にある。かつて大ブルジョア邸宅の設計法しかしらなかつた建築家は、国民大衆の生活の中に入り、調査し学ぶ中で小住宅の中に民族が蓄えみがいてきた住み方の技術、その伝統の一部を、住み方の方式として、その法則性としてつかんだ。だがこれはまだほんの一部分である。建築家は更に国民大衆がその生活の中で身をもつて工夫し体験してきた生活の英知を、建築を創造していく根元的な力を単に住み方の法則性といった静止的な姿だけでなく、動きつつ発展していく姿で、それを変革する源動力と共につかまねばならない。でなくてこれを固定化した法則性に矮小化してしまうならば、建築家は低水準住居を永久化する仕事に加担するピエロとなつてしまうだろう。

同時にまた100万の建築労働者が自ら汗をながした労働の中で蓄えた経験とエネルギーを結集し、理論化し、ためていく活動が必要である。

これらすべては、国民の中に入り、国民と密着し協同した広汎な調査活動によつてはじめてつかみうる。そこに国民的建築創造の無限の源泉がある。

私たちが農村へいく。草屋根に煙突をつけるのにどうしたらよいか、このカマドはどうすればよいか、流しはどういう造り方がよいか、とたずねられる。これに対して、書物にある様な現実の条件を抽象した割切つた解答は直ちに出てくる。しかし現実には複雑である。長い間つくばつた労働の中でとしよつた老母と、若い嫁との要求する流しの高さはちがう。この場合どう答えたらよいか。燃料の質と量、経費、労力、現在の建築の状況、等

々によつてカマド一つの選択さえ容易ではない。又すべての改善は破滅しつつある農家家計の中から出費を要求している。更に専門の領域をこえた様々なナマの質問が次々と出てくる。これを答えないですますということは出来ない。厚かましくハッタリをきかし、少々ミスもやむを得まいという式の「学者」に自らをさげる事をいさぎよしとしない私たちは、今までの建築学が農民のためでなかつたこと、国民大衆のためのものでなかつたことを痛感し、そこから多くのものを学ぶ。考えてみれば現在の「建築家」の手もとにある国民に役立つ伝統と理論の武器は、きわめて貧しく限られているのである。

建築生産の領域に奉仕する知識労働者としての建築家は、謙虚に自らの不勉強を自覚し、これを個人的にでなく（それは個人的にはできない）広く手をつなぎ、組織的に、問題をみつけ出し、現実から正しく学び、経験を抽出し整理する能力を生かし、国民の要求にこたえねばならないであろう。こうしてこそ、我々は伝統を正しく将来に発展させる担い手となれるのではないか。遺構や書物に安住している人々に未知な、無数の生々とした創造力の源泉は、国民の中にこそある。我々が今なしていることは、民族的伝統の「一覧表」をつくる様なことではなく、国民の闘いの中に入り、その武器となるものを掘りおこし民族的な共通の遺産にまで高めることである。

5. 「国際建築」への批判

民族的伝統の再検討から出発しようとする国民的建築は、明かに1920年代の「国際建築」に対立する。

周知のように、国際建築はグロピウスが1925年にのべた個人、民族、人類の中で最後の円がすべてを包括する建築は現在人類の建築として世界共通の基盤にたつて考えねばならない、といった主張を理論的なよりどころとしている。しかし現実にはそれは鉄、ガラス、コンクリートという地方性をこえた工業材料の上に発展した「近代建築」の地方性をのりこえたと自負する造形をもつて世界中いたるところで模倣され、やがて第二次世界戦争後、アメリカを大本山とする資本主義世界の共通言語となつたのである。

それは、第1次世界戦争後の資本主義のみじかい相対的安定の中で、やや進展した世界貿易の楽観的な見透しの上にたてられた国際主義の気運にのつたものであるがその主張は運動の主流とその建築物が示すように、近代建築の伝道者たちの基盤であつた小ブルジョア的、観念的なものであつた。構造材料から一足とびに造形の上部構造まで飛躍させたその論理の中には、一応「人間」も考慮されていたが、その人間の生活は呼吸とか寸法とか抽象化された物理的人間であつた。また言葉の上では社会学的な考察も加えていたが、生活や慣習の様々な条件階級や階層の分化はすべて技術主義的な独断で捨象されていた。

無論、国際建築の主唱者やその信奉者たち（例えば日本インターナショナル建築会）は決して生な国際的劃一主義をふりまわしていたのではない。これは伝道者達の多分に個性を誇張した作品をみてわかるし、日本インターナショナル建築会もその宣言には「ローカリティを尊重し」と明言している。けれども、すべてを技術主義的世界観で捨象したあとに附加されたローカリティはただ若干の気候や材料その他の条件での「変種」をみとめるだけで、世界資本主義の繁栄の幻想の上に、頭の中で考えられた国際的な「共通性」を本筋とするものであつた。

この国際建築は、近代建築の主流をなしていたが、これに合流させることの出来なかつた地方的な流れもあつた。これらのうちのあるものは、やがて国際的様式の手きつまり——流行おくれとなるにしたがい、新環境主義だとか、新地方主義だとかいう形とならんで発展し、戦後の近代建築のはなやかな展開に色ぞえている。

国民的建築とは、この様な流れに應ずるものであろうか。——そうではない。

国民的建築は、無国籍の近代建築と明かに対立する。それはあくまでも民族的な現実を出発点とする。民族の生活・文化・慣習の直接の発展として建築をみる。民族の独立が外国侵略者によつておびやかされている時は、建築もまたこの闘いにたたねばならぬ。このような闘いが国際的な平和と独立の連帯の闘いとなり、或は更に進んだ社会主義経済建設の闘いとなり、その発展の段階や闘いの共通性の故に建築の技術や理論に共通の国際的な統一戦線が形づくられようと、解決の形態はあくまでも民族的なものを根幹としよう。遠い将来、それが真に国際的な共通の文化を形成するとしても、それは百花りようらんの飛躍的な多様さの上にこそ期待すべきであろう。

国民的建築は、このような道に——国際独占資本が自分の「自由な」文化として押し出してくる無国籍の、国民大衆とはつながりのない、反民族的な近代建築のコスモポリニズムに対置されるうちに——進むものであろう。

6. 近代建築と国民的建築

近代建築は過去の建築からのけつ別を出発点とした。

近代建築の創始者たちは、古いもの——伝統のガラクタの中からいかに抜けてようかともがき、一步一步新しい建築言語をかちとつていつた。それは古い石造や煉瓦造の建築生産技術、19世紀の貴族や富豪たちの示威のための荘重な造形の中に窒息してしまい、独占資本主義の段階の高度に機械化された産業経済や大都市のめまぐるしい生活の発展、これをみたす構造や材料設備の技術的発達に対応できなくなつてしまつた建築芸術を救う進歩的な役割を一面で果たした。その創始者達にとつては、パトロンをうる事が困難な場合もあつた。彼らは新奇さをもつて客を引つけるために、主観的には古いものを出

来るだけ否定しようとした。その努力はやがて報いられ資本家たちはパトロンとなり、近代建築は遂に建築界の流行の寵児となった。

近代建築の発展を生み出した基本的な力は、古いものでは満足出来なくなつた社会の変化、工業化と露骨な利潤追求であるが、ここで建築家が伝統と手を切ることを指導した力は、建築家の生活原理の根元にまでしみこんでいつた商業主義である。そのうえ資本主義は、建築生産にたずさわる人々を、資本の使用する建築家と技術者と、ただの労働を売る労働者とはつきり分解してしまつた。建築はこれを使用する国民のためのものでなく、それを使用に供することによつて利潤をもうける建築主のものとして建てられた。建築の造形は商業主義の奴隷となつた技術者—建築家にまかされた。建築家は国民の生活や建築生産の労働から分離され、その中で過去の蓄積を正しく発展させる物質的、精神的基礎をうしない、建築の国民からの分離はつよめられた。しかも、そうした建築家も、使用者と使用人とにわれ、資本主義社会の危機の発展と共に牧歌的な協同はこわれ、使用人たちは労働強化の中に技術をうり、使用者は施主にコピを売り、建築創造の条件は急速に貧困化し、スター主義と冒険的商業主義がわずかに眠あたらしさをあたえている状態となつてしまつた。

グロピウスはパウハウスで、たち切られた諸芸術の綜合を再びかち得ようと努力した。しかし彼は芸術家・技術者と労働者との協同の中で、労働者の中にある積極的なエネルギーを創造にもりたてていく事は考えつかなかつたし、又そう考えても資本主義の下ではそれは不可能であろう。技術者・芸術家・知能労働者だけがいかに、「綜合」を考えても、それははかない綜合、かたわな綜合である。

国民的建築は、近代建築の伝道者達が努力し、またその後継者たちが新しいスターの王座につこうと努力している伝統とのけつ別に反対する。国民的建築は、建築を生産の根から孤立させる現存の機構の中で、建築と国民との結合をつよめる斗いの中にこそ生れる。この斗いは資本主義的分業がでつちあげた建築生産組織のヒエラルヒーの頂点につきあげられかたわにされた建築家ばかりでなく、建築生産に従事するすべての人々、更に建築を要求する国民全体の協同の下に進めねばならない。単なる建築だけの問題でなく、建築家のもつなやみと不安、建築各職、労働者の要求、国民を苦しめているすべての問題について、建築を国民のものにとりもどすために、建築に関係するあらゆる層が真剣に考え、話しあうならば、現存の機構はなおこれを阻むとしても、新しい創造への前進は大きく始まるのである。建築家や労働者が生活の不安になやみ、或は生きがいを感ぜない職業や仕事になやむことは、民族の危機の具体的な内容である。

それなればこそ、その一つ一つの解決の道を話しあい、抵抗を進め、行動を統一して高めていくことの中に、国民のための建築をつくる道が用意されていると同時に、民族の当面している独立と自由への前進もかちとれるのである。1954年の総評会館の共同設計には、200人もの各層の建築家が集つている。土建組合傘下の労働者が示すように、建築労働者も組織をつくり、各職の範囲をこえた話し合いをはじめ、技術者層とも手をむすぼうとしている。また54年秋の建築学会大会に集つた全国の計画関係の学者の協議会では「国民のための設計」を来年のシリポジウムのテーマに決定している。営利建築や貸建築の中でも建築家達は国民との結合の条件をさがしうるし公共建築や住宅政策の実施面、労働者や農民の居住状態の改善や防衛の面では更に国民と密着した課題が無数に発見されよう。

その形態と段階は多様であろう。がそれらの活動は、みせかけの建築文化に対して、国民の要求に正しくこたえ、民族の伝統を守り、国民的建築を発展させる大きな斗いとなつていくであろう。

6. 伝統を発展させる力

人は建築するのに伝統を無視しうるのであろうか。あらゆる過去の蓄積を度外視して（例えば機能主義の原理をよりどころにして、過去の範例によらずに）すべてを創造することのできるであろうか。——それはできない。

我々は過去の蓄積を利用する。その土台の上に新しいものを創造する。

なぜ新しいものが必要であり、且つ可能なのか。新しい条件が——生産上の、使用上の要求の変化があるからである。それを正しく機敏に見つけ出し、たえず新しい経験をつみ重ねていく。こうして我々は創造力を発展させる。芸術に於ても無論そうである。芸術に蓄積がないなどとはたわごとである。

伝統とは、過去の遺物、過去のある特殊性ではない。今生きている、うけつがれていく過去の蓄積——生きている経験である。

封建時代の手工業から、資本主義時代の大工業生産に発展することによつて、技術は飛躍的に進展したが、この飛躍の中で、古い自給経済の中に生きつづけてきた伝統・人民大衆と結合した伝統とのへだたりがいたる所で生じた。資本主義の発展の初期にあらわれた（例えばモリスの）手工業の復活の試みは、反動的な中世への没落しつつある階級の郷愁をあらわすものであつたが、同時に人民の生活の豊さを求める、見うしなわれた伝統を復活させようとする積極的な面をもつていた。だがこの復活は願望や良心的な生産だけではどうにもならない。今日、手仕事の讃美、「民芸」といつた形で一部の好事家を対象に、部分的には商業ベースにのつてその形骸が誇張された形で残っているものがあるが、資本家的商品生

産者たちはそのデザイナーに「変りもの」としてそれらを造ることを許しても、人民の生活と結合した喜びとしての生産の伝統は、資本主義制度の下では自由に開花する条件をもたない。自ら住むための家の場合はなお古い条件が若干生きつづけるが建築でも営利や抑圧のためのものが支配するにつれて、状態は全く同様となった。

今日、建築家が古建築を研究し、茶室を調べ、或は数寄屋大工にその技芸の粋を学ぶとしても、それは商品生産者達のもとにやとわれた民芸デザイナーのもつものと何らことならぬ限界に衝突するだろう。今日、建築家だけで、国民と結合した豊かな生活に奉仕するための建築をつくる伝統を発展せしめることが不可能であることは既にのべた通りである。それは国民の生活の発展をねがい、建築の発展をのぞむすべての階層の人々との結合の中にしか求め得ない。「近代的な合理的精神によって日本古文化をみなおしていく」それで「はじめて近代的な独自のものをつかみうる」(神代、建築雑誌 1954. 1)というような発言の中には、建築家の伝統からの隔絶の意識、伝統のみ方での「我々の立場から」という積極性がみとめられようが、その立場の狭さはおおうべくもない

日本の建築を発展させる力は、いまや国籍をうしなつた合理主義や、外国にたより外国に媚態を示す道によつてでなく、日本国民と結合し、その苦しい斗いを共に進む道でしか求め得ない。その斗い——国民的建築の発展のさまざまな場面で、建築家は、今までの施主の使用人としてのかばい結びつきをこえて、広く諸階層と手を

結び、国民が当面している危機のあらゆる階層における表れを自らの問題と結合しつつ、本当の国民的建築を発展させる道を見出し得よう。そこに民族的伝統を真にほりおこし、発展させる建築家の任務を果しうる条件が生れてくる。建築家はそれをやるために、謙虚に国民の各層に奉仕し、自己を改造しつつ学ぶことに努力しなければならない。国民は、日本の国民的建築を発展させるための無限の創造性とエネルギーを秘めている。

私たちはつい此の間、鳥取県下のある農村に合所改善に関連した調査、指導に入つた。そこで私たちは直ちに回答し得ない無数の質問をうけて大いに学んだと同時にある農家では、その日我々の更衣室の位置決定についての討論をきいてかえつたあと、図面をかけたこともない人たちが、家内中全部あつまつて、各人の一日の動線を図にして、どうしたら便利になるかを討議し、翌日我々の来訪をまちうけていたという事例に接した。国民は自らの生活改善に、もし条件がととのえられるならば、職業的な建築家の水準をはるかにこえたエネルギーと創意をもつて問題を解決する力をもっていることを示している。我々がこれにこたえる道は、過去の使用人風の態度をのりこえて、国民の建築家にならうとすることである。

(1954. 12. 1)

(附記) 文中「近代建築」ということばは、歴史的な意味をもつたものとしてつかっています。単なる近代の建築という意味ではありません。御諒解をねがいます

(筆者 京都大学助教授)

民家史の一課題

——所謂「民家」に考えられる伝統的なものと典型的なもの

白 木 小 三 郎

同じく庶民「住」である事には差異がないのに「住宅」というのと「民家」というのでは、全然異質のものが感ぜられる程、ひびきが違う。即ち「民家」というと現実の生活とは離れた歴史的な残像のようなものと、形式的に硬化してしまったようなものを感じさせる。事実一般的には「民家」というと「農家」、しかも時代的に推積、残存された所謂伝統的なもののために、又それによつて典型的に固定して、弾力のある現実の生活方式には即応出来ないもののように考えられている。果してその伝統性、或は類型化とは「民家」をして現実の生活とは無縁なものにする体のものなのだろうか。これは「民家」が形成され、類型化し、伝統される過程に、広く歴史的な再研討を加えて見る事によつて解明される事であろう。又これを明らかにする事が民家史の一つの大きな課題でもある。ここでは、そのような伝統性とか類型化とかについて、問題にな

る二三の時期に一応の歴史的な焦点を合せてみたい。

(一) 社会構成の単純な時代では庶民と農民とは同義であつたと考えて差支ない。従つて「民家」は「農家」そのものの意味に解され得た。自然民家史的な考察は先づ農家を中心に展開されていく事になる。このような時代の農民生活は、農耕生活であり、農耕と狭義の生活との区別の出来ない、生活的に未分化の状態だつたといえる。従つて農家は農民の「住」であると同時に、農耕生産のための場所であつたと見られる。即ち農家とは、農民住居というような狭い規定の下に形成されたものではなく、社会構成の基体——農耕生産——農家という関連の、単純な構造の社会に於ける一体性から、所謂全生活的な大きな規定の下に形成されたものといえる。ここに「農家」としての大きな類型の形成される所以があり、又あくまでも即風土的な、それだけに変化しにくい自然

経済的な生活条件が、内面に強く生成されて行く所以が考えられる。しかし時代が降り、社会構成が複雑化してくるにつれ、農民の生活にも次第に時代性が強く影響してくる。即ち律令制、庄園制等の社会構成が、単に社会構成上の基体に過ぎなかつた農民層に組織的な変化を与えてくる。あるいは班田農民として、あるいは名主農民として、組織上の取扱の条件も、直接的な影響というよりは、農耕又は農耕地を媒介として表れる時、全生活的なものとして「家」の形式にも大きな変化を及ぼす事になる。(註1) 律令制は農村の聚落化、即ち地縁的な生活共同体の組織化を促進し、従つて、各戸には、単一型の家族構成と、単一家族型農家形式の形成を推進する結果になった。又、庄園制は、孤立式な散居型の名主、名子というような、同族的(血族的)生活共同体の充実を促進し、従つて、各戸には複合型の家族構成と、変化の多い複合家族型農家形式の形成を推進する結果になった。(註2) このように二つの時代性は農耕生活の風土的な差と共に、大きな「農家」形式の二類型を形成したものと考えられる。(註3)

(二) 封建制社会への過渡期は、社会構成上の基体であつた農民層を、大きく分化する契機になつたと言える。即ち、封建制社会への構成分化は、武士団の農民層よりの分化のように、従来の庶民層—農民層自体の階層分化と考えられる。従つて生活全体としては勿論、「家」の形式においても、階層的に分化して、次第にその一元性を失つてしまうようになる。即ち武家住宅として、農家形式から離れてあるいは主殿造、あるいは書院造へと遠心的に展開していく段階は、それらの階層の生活が次第に土地から離れていく過程に、理解されなければならない。又このような新しい構造の社会への過渡期には、段階的に階層は上昇して行く。例えば、名主層の有力者が土豪的な性格を持つてきて、それを背景にして武士団が生成されて来るように。即ち庄園的な支配区劃から、郷村的な自治村落形成の過程には、常にこのような名主層を背景とした所謂土豪が、又土豪の勢力を背景とした自治体自衛のための武士団が、生成されていくのである。この段階的な関連は、「家」形式についても農家形式から武家住宅を理解する階段であると共に、主殿造、書院造から農家形式への可逆的な影響を解明する階段にもなると考えなければならない。

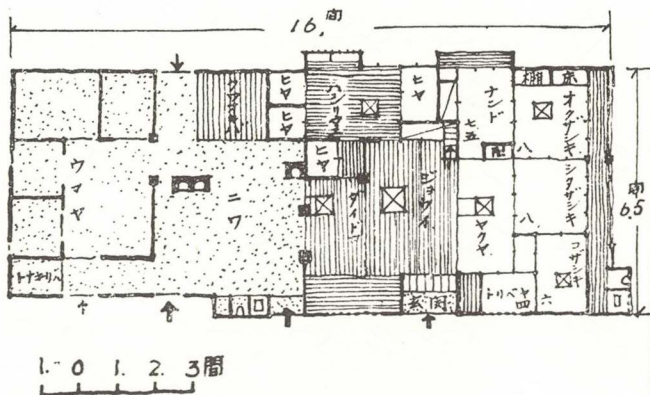
(三) 封建社会における生活形式、引いて「家」形式の特徴は身分階層の表れとして、生活階層の表れとして階層類型的に検討されなければならない。農家の場合でも当然この方法によつて理解される処が大きい。しかし農民の場合の階層は常に土地を媒介としたものである。即ち農民は農耕する土地との関連で、身分が又生活が、階層化するのである。(註4) しかも封建制社会の命題はそのような階層序列の固定化にあつたのである。従つて

農民の土地に対する関連は、封建制以前のものまでも含めて——あるいは班田農民の特性が、あるいは庄園制下の土地に対する諸権利の表れである諸「職」(名主職、作職、下作職)が、近世的な土地所有の形式と共に——封建制という組織の下に定着されたのである。即ち、太閤の全国的な一斉検地は、この意味の現況把握の規準になつたものである。

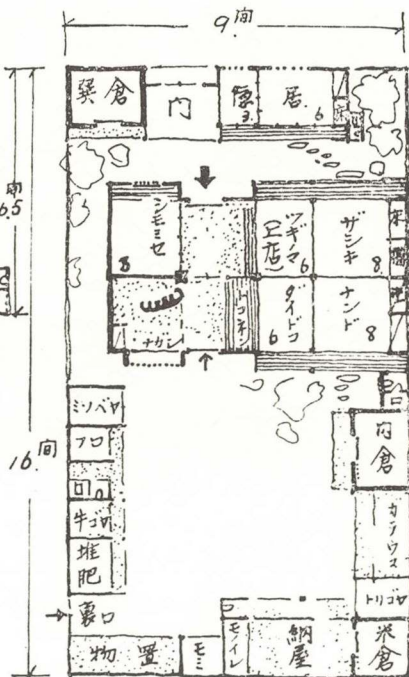
これはまた、土地を背景とした農民の、単にその時だけの身分記載ではなく、それにつづいて次々に出される統制策が示しているように、農民層を全生活的な制限統制の下に、その状態を永続的なものたらしめようとしたのである。即ちそれまでに多少づつとも残存していた時代性もここで封建制によつて一挙に定着され、生活方式として、また「家」形式として多くの時代差があるに不拘、一応、すべてが封建遺制と規定される所以があり、伝統性と概念される所以がある。従つて、民家形式に考えられる所謂伝統的なものは、このように多岐に汎つて詮索されなければならない事になる。

(四) 近世にはこのような各時代相の投影を含めての現状定着という封建的な一般性と同時に、営農方式によつて農家の性格を大きく地域的に類型化する経済的な契機もある事を考えなければならない。それは商品的な農作物の生産による交換経済組織への参加である。即ち、このような方向に進むか、自然経済的な旧態依然たる営農方式にとどまるかによつて、先づ西南型と東北型とに分れる。東北型の未だ山間僻地に残っているような名子制度や、現物資租に抑えられた自給穀物経営形態にとどまるのに対し、西南型では、大和河内の棉作、あるいは阿波の藍作等のように商品的作物の栽培による集約的営農方式への進展がみられる。西南型に於ても、大和河内の場合のように、自ら市場に販売する農民的商品生産の方向をとるのに対し、阿波のような場合は、藩の専売制下に農民自らは市場販売に直接参加が許されない。これによつて大和河内の場合は農民自らが富庶化するのに対し、阿波の場合のような例は藩の財政的破綻を救うのに役立つても、農民自らの富庶化には役立たなかつたのである。(註5)

このような営農方式の地域的な類型は、先づ東北型の場合、中世的な社会構成の要素を多分に残して、自然経済的な自給穀物経営形態をそのまま生活方式に定着させた、一棟多用の複合家族型農家形式に停滞さす事になるこれに対して西南型の場合、阿波の例のような場合は、大きな変化はみられないが、畿内の場合は、大阪堺を中心とする商業経済圏の直接的な影響を受け、農家の性格が大きく変つてくる。即ち、先づ従来の農家には是非必要であつた「ウマヤ」という部分が「シモミセ」(下店)という商取引の場所に変つてくる。これは農家が商品的作物の栽培による集約的な営農方式に変つて来た



(図一) 大和，山辺郡二階堂村備前，M邸 (右)
(図二) 南部，二戸郡，石神村大屋，S邸 (上)



同時に、自らその販売者になった事を示している。またこのような集約営農は、自然、小さな面積の耕作権を持つ事だけで生活を可能にすることになる。従来、単一型の家族構成とはいいいながらも、傍系親属の一部、あるいは下人等が、隠居または小屋と称する同一屋敷内の別棟に居住するのが一般的な傾向であつたが、これによつて所謂「小屋」居住者は「水呑」として、次第に独立した「家」を持つ事が出来るようになってきた。(註6) 一方上層農家も次第に手作大農から、小作料に依存する寄生地主化するか、又は農作物の再生産者として、酒、醤油等の醸造、綿加工等を業とする事によつて、富庶化していく。このような江戸中期の大和河内の農民生活の一端を示しているものに、西鶴の「日本永代蔵」(巻五)(元禄元年)、「大豆一粒の光り堂」の大和朝日の里の「かわばた九助」や、同じく「置手紙」(巻二)(元禄五年)「憂きは餅屋つらきは雄ふみ」の河内高安の山本近き里の物持庄屋等がある。これは一方は小百姓が一朝にして大和にかくれない綿商人となる例、また一方は、綿作で富庶化した庄屋が、没落して大阪の町人として再生する例である。これらの例は取りも直さず、農家が即風土的な従来の極めて変化の少い、自然経済的な生活条件から町家的に変化の多い、交換経済的な生活形式に入つて来た事を示しているものである。ここに農家といえども全生活的な条件の変化に応じて、「家」形式の変形してくる一端を考えてみたい。

従つて「民家」に考えられる伝統性には「建物」としての「家」だけでは理解されない。全生活的に検討されなければ解明され得ない広さと深さを持つているのであ

る。それだけに民家史的研究の課題は非常に大きく残されているといわなければならない。

- 註1、筆者「聚落型民家の系譜」(1~6)(建築学会発表昭27~28)で照介したような多くの研究がある。
- 註2、筆者「民家形式と戸口構造との史的関連——散民型民家と聚落型民家について」(市大家政学部紀要1, 2)で照介のように多方面の研究労作がある。
- 註3、四つ間取に土間(釜屋、下店)の付いた型式(図一)と広間を中心として多くの「ヒヤ」(寝室)を取つた、その上大きな土間を持つ型式(図二)
- 註4、検地帖、地方文書を取上げたこの方面の研究が最近頃になつてきた。
- 註5、戸谷敏三氏「徳川時代における農業経営の諸類型」(アテック・シユーズム18)、堀江英一氏「封建社会に於ける資本の存在形態」(社会構成史大系三回)等の労作による。
- 註6、この方面の研究については、筆者「農村住居の近世の変遷に関する考察」(1.2)(建築学会支部発表、昭29.11)で照介したものによる。
- (以上)

(筆者 大阪市大家政学部助教授)

株式会社 奥村重兵衛商店 大阪市北区木幡町三番地 電話堀川 一四一六四番	合理的工法・責任施工	防錆完全・中空防音	耐震・耐火・軽量・堅牢	採用下さい	は日進式を御	を・軽量鉄骨	には軽量鉄骨	間仕切・天井

(御照介、^{トノムラ}外村さんは織芸家として広く知られた方ですが、また日本の民芸および民家に対して深い観察眼を持たれそれを度々発表されております 本文は山陽新聞紙上より御承諾を得て掲載したものであります)

戦争後の日本は海外から多くの名画を迎え、音楽家を迎えた。しかしこのような純粋芸術に対して工芸に関する物や人は非常に数が少く、漸く去年バーナード・リーチを、今年ワルター・グロピウスを迎えただけである。

この比例は、わが国の人々が純粋美術(観賞や観念の世界)への景仰に厚く、工芸(日常美の真実)への無関心をよく表している。しかし、数ではともかく質ではグロピウスのような強く確かな存在を迎えて、その反響ははなはだ大きく、氏の一挙手一投足をも片言隻語をも全身を耳目にして受取つた観がある。

倉敷にも緊張の三日二夜がすぎた。そしてその一夜に私どもの前に一つの公案が出されたのである。私どもはかねて採集した吉備の民家のスライドをグロピウス氏夫妻と随行の人々の観覧に供した。グ氏はその時何ごとともいわず、にわかに起つてアメリカから持参したものを見せようといつて、最近の建築のカラースライドを見せられた。私どものものが単色であつたのに対し、これは多彩で理論建築の華であつた。席からは嘆息が上つた。私はその時グ氏が「桂離宮は美の極致である」といつた言葉を思い出していた。この言葉は氏の建築と工芸に関する「技術的で美学的、云々」が桂離宮に完成されていることへの驚嘆として当然であるが、この夜、私どもの民家のスライドに対して、国際建築のそれを見せられた意図も同じところに在つた。そしてここに大きな公案が出されたのである。しかしそれはグ氏の提案ではない。グ氏にも課せられた公案であつた。桂離宮については既に定評があり、ことにこれは常民にとつて勿体ない聖域であり、その結構においては批評の一指もふれられないタブーになつてゐる。それを、すでにブルノー・タウトらのした以上にグ氏が称讃し「その背後にある禅の哲学…」とまでいわれると、日本人はたじろじしながら鬼の首でも取つたように喜ぶのである。元より金閣寺や陽明門の嘆賞に比してどのようにまじなことか知れないけれども。

しかし、彼らは桂離宮に感心して、その門前の田野の中に在る山城の農家を何故取上げないのであるか。もちろん、グ氏にも民家への言及はある。しかし、桂離宮とそこから出て見る農家との対比は、凡そ建築や人生に就て思いを寄せる者にとつて見逃しがたい公案をもつてゐる。そこで何言もなかつたというのは甚だ心えないこ

とだ。吉備の民家のスライドへの沈黙と、国際建築のスライドを提供された意図も亦、ここに帰するのである。

桂離宮が何故かくも嘆賞されるのであろうか。桂離宮はまず、数寄屋建築の代表だといわれる。元来、数寄屋の精神はいうまでもなく「奇数・老朽・狭小」である。「揃わず、古く、狭くして」尙よしという有合せでムダなく建てて暮す心である。むさぼらざる物によつて巧みに作り、おのずからなる美しさに居る、合理性と倫理を含んでいる。これはバウハウス運動の主張にさも似ているから、グ氏が数寄屋の代表という桂離宮を言葉をきわめて賛美されたのは当然であらう。

数寄屋建築は桂離宮の前にも後にも盛んに行われた。茶室は元より、今日では料理屋や旅館、それらの影響で金持ちの別荘、住居にまでひろがつている。しかし、それらのほとんどは数寄屋の精神や美しさから早くはなれ強いて不揃いを求め、古びをつけ、無理な面積をたくらんでいる、思ひせふり、気取り、こしらえごと、きれいごとである。不揃いをうまくとのえるためには並ならぬ費用さえかけている。結果は皆、何か官能の末期的なもののみを感じさせるのである。

そして、悲しいことには桂離宮もこれらのひんしゆくすべき要素をもつていないと誰もいいえないであらう。

それにしても、桂離宮がこんなにも材料や構造の変化を破綻なく結構した技術は、合理に欠けた日本の中で驚くべき存在であるにちがいない。建築とともに造園との調和や、全体の真、行、草の移り変りの巧みさ、まことに一木一石に至るまで、すきまのない技術と美しさである。その驚くべき充足非の打ちようがない。

しかしながら、見よ。それだけではないか。詰めてあつて溢れてはおらぬ。冷たくして愛情がない。見る者の血は頭上つて胸は躍らないのである。楽しくない。ここに暮したい思いは誰の胸にも浮ばない。それは、国際建築を見ても全く同じである。

これらに対して農家はすきまだらけである。今日、生活改善といえ、農家の不合理が槍玉に上げられるのがまず第一である。しかし、山野に生産をこととして立つている農家はきれいごとや遊びでない確かさをもつてゐる。生えている。知に欠けているかもしれない。しかし豊かに力にみちている。足が地についた生き物である。そして、愛情を招び、暮したい思いを誘う。何か望郷の情をも湧かせないでは止まない。

数寄屋に深い関係をもつ茶道の心は、古くからいわれている「喜・老・大」で尽きる。喜びと親切(老婆心)の寛大である。しかるに、何故われわれは、いわゆる茶

道やその建築にそれを受けないで、農家に感じるのだろうか。

書家の達筆は実に立派である。技巧を用いて味をととのえることまでやるのである。しかし、それは、うまいのであつて良くはない。むしろ、書道や技巧を知らぬ人たちの初心で、上手でない文字に生きた良さをこそ多くの人は気付くであろう。書道以前の良さであつて、漢や六朝の文字の美しさはそれを示す。農家の与える喜びもそういう性質をもっている。

私は幾年前、桂離宮から出て門前の農家を見た時の喜びを今も忘れることができない。けれども農家は不完全を求めているのではない。不完全に止まろうとしているのでもない。一生懸命に風土や生産に即して建てられ生きて働いているのである。

桂離宮は禅の哲学の表現であるとよくいわれる。しかし、これは禅そのものではないことを知らねばならぬ。

禅では「不立文字」という。文字を立てず、言語に依らずして悟り得る境地を求めて止まない。だから、捻華微笑を禅家はあこがれ、かかる会得のために黙座するのである。しかも、実は言葉を用い、文字を立てることもまた甚だ熱心であつて、禅家ほど多く且つ華やかに文字

を立てる宗旨はない。もちろん、この文字は遂に「不立文字」の境地を示すものでなければならない。もし文字や言語に終るなら、いかに饒舌であつても禅について語るにすぎず、禅そのものではない。禅門の書物は実に興味あふる比喩の文字にみちている。それを弄して人を感じせしめることもできる。禅のティレタントは実に多い。彼らを野孤禅という。

桂離宮は完全にして能弁である。それは果して禅であろうか。野孤禅ではないと誰がいい張れるであろう。

そして農家は黙して自在している。柳は緑、花は紅である。分明の世界でなくして自明の境地である。農家は答である。

桂離宮と農家を焦点に与えられた公案は、メカニズムの周到や趣味性の充足が、それら以前のもの以上になりえない一点をどうしたら越えられるかという、この時代への課題に帰着する。メカニズムのもたらす安全と能率と享楽に達したアメリカのもつ不安でなくして、たしかによい暮らしは何処にあるか。その玄の力をどうしたら取り返せるのか。グロピウス氏はこの公案に気付いたであろうか。

(筆者 倉敷民芸館館長)

(29. 9. 17 山陽新聞)

西洋の建築的伝統について

森 田 慶 一

西洋の建築的伝統——のみならず西洋の文化一般の伝統——といえ、どうしても北歐的伝統と地中海的伝統との二つの主な流を指摘せざるをえないでしょう。いまさらこんない古されたことを何故くり返すのかというと、現在日本で行われている建築批評の多くをみるときいまだこのことがよく理解されていない、あるいは古くさい論議として故意に無視されているかに私には思えるからです。勿論現代の西洋の新しい建築の考え方はこんな割り切った二つの伝統の型だけでは説明しきれないでしょう。現代建築を特色づけているいろいろな性格はそれがいかに多様であるにしても、少くもその奥にはやはりこの二つの流が伝統として息づいていることを否定できないし、またこれをはつきりと見分けることによつて見分けることによつてのみ、現代建築の複雑な諸相を理解することができると思うのです。

講義調になつて恐縮ですが、前置としてこの二つの伝統そのものについて少し話しましょう。その前に、建築的伝統といつても、それは建築の考え方の伝統、芸術としての表出における伝統、あるいは建築が拠つてもつて立つ生活の伝統、いろいろな要素を含んでいること；この二つの流はそのいずれの要素にも、ニュアンスこそ異なれ、ほぼ等しく適用されること；ここでは焦点を建

築の表現の面に合わせていることをお断りして置かなければなりません。さて、地中海的伝統は文化一般の領域内で「古典的」と呼ばれている伝統で、すでに早くギリシア建築にその一つの完全なモデルをもち、ルネサンス建築に受けつがれ現代建築にまで及んでいるものです。北歐の伝統は「古典的」に対して「浪漫的」といわれているもので、その最初の完全な姿をゴシック建築に現わしているものがそれです。勿論、西洋建築が経てきた長い時の流のうちでは、「東方的」といわれるような伝統の混入も注意されなければならぬでしょうが、それは西洋建築にとつて本質的とはいえないでしょう。

では、この二つの伝統はどんな性格をもっているのでしょうか。古典の伝統は何よりもまづ明晰・完全・節度を尊びます。そのためには形は限りある世界のうちに完成され、厳密な法則と秩序が要求されます。そこでは形の要素は力が完全に釣合つて自然に調和し、形式と素材な幸福にも一致します。その行き方は全く理性的です。浪漫的な伝統は、これと全く対蹠的で、奔放な感情が根底に置かれます。有限な完全のかわりに無限が追及され、明晰なものかわりに漂渺たる気分が導ばれます。何とも見分け難い混淆のうちに一つの奇蹟が予期され、それを通じて宇宙の秘密に触れようとつとめます。このよう

に要約されたそれぞれの性格は文化一般について普通説かれています。建築についてもそのまま当てはまりましょう。

さて、話を現代建築にもどしましょう。建築がルネサンスの影響を脱して新しい道を歩み始めたのは十九世紀末でした。その頃の新しい動きを代表するアート・アンド・クラフト運動やゼツェションやアール・ヌーボーなど一連の運動はどういう伝統を負っていたのでしょうか？私はそれらを浪漫的伝統の息子、純血ではないかも知れないが少くも混血児、とみるべきだと思います。それが地理的に北欧圏から起つたというような先入見からでなく、作品そのものがそれを語ってくれるのです。細かい分析を述べている余裕はありませんから一例をもつて話しましょう。ウィーンのゼツェションを特徴づけていたものは形の単純さでしょう。これは古典の伝統がもつ明晰・明朗の糸を引くものだと抗議がありうるでしょう。しかし、この単純さは単なる芸術的精神の素朴さからくるものであつて、古典的建築が主張する法則と秩序から生ずる理性的な明快さとは異質のものです。建築の考え方においても、その名が示す通り分離が標榜されているとしても、それは決して伝統そのものからの分離ではなくて、ただ古典的伝統からの分離に過ぎない結果に終つたのです。極端に言えば情に溺れた優美さがアカデミーの名のもとに腐敗しつつあつた秩序のかもしだす至極退屈な美しさにとつかわつただけです。この傾向は第一次世界大戦後のドイツの表現派運動にそのゆきつく姿をみいだすことになります。二十世紀初頭の芸術の理想は個性・創造天才・自由というような一連の美しい言葉のうちにみいだされます、そして新建築運動の目指すものもこの理想に他ならなかつたのです。これらは、とりもなおさず、浪漫的伝統が正統な主張者なのです。古典主義者も創造を、自由を、要求するとしても、これはそれとは同名異義のものです。それでは古典の伝統はシンケルを一期としてあえなき最後を遂げたのでしょうか？そうではありません。オーギュスト・ペレヤル・コルビュジェなどがそれを蘇がへらせているのです。近世において建築のメトロポリスを誇つてきたあのフランスの二十世紀初頭における不妊現象は近代建築が、前に述べたように、浪漫的伝統を全身に負つたことで説明できないのでしょうか。実にフランスはゴシック建築発祥の地でありながら、その奥にラテンの伝統を深く蔵していたのです。パリのノートル・ダム会堂は確かに北歐的精神の見事な像でありましょう；それでもなおそのなかには水平な線に限られる正面が示す古典の伝統を否定することができません。第一次世界大戦前まで浪漫色一色に塗りつぶされていた近代建築の環境の中で、古典的伝統はずつと眼を閉じて近い未来に準備していたのでしょうか。そしてそれがペレのシャンゼリゼ劇場となつて姿を現してき

たのです。現代建築において古典的伝統の発展は恐らくまだ充分ではないでしょう。しかし、その生存権の主張はもはや確実です。私たちはそれに眼をふさぐことはできません。ただいえることは現代建築においても二十世紀初頭の浪漫的傾向の優位はなお持ちつづけられているということです。これは政治的な活力の消長というような理由によつても一応は説明できるかも知れませんが、それは今の問題ではありません。

以上私は現代建築を二つの伝統を頭に置いて至極割り切つた形で考えてきました。けれども現代建築家の個々の作品がこのような単純な形で存在すると考えているのではありません。個々の建築家の精神の中ではこの二つの伝統は互に混血し合つて複雑な様相を呈しているでしょう。しかしその何れかへの傾斜は否定できません。

私たちは大正の初期に実に容易に西洋の新建築を採り入れました。その理由はいろいろ考えられるでしょうが私は初期の西洋新建築が浪漫的伝統の上に立つていたことに大きな理由を認めたいと思います。というのは、私たち日本人の心情には何か浪漫的振動に共鳴しようとする絃が張られているように思ふからです。私たちは西洋の現代建築を浪漫的傾向において、ただそのみにおいて、捉えていないのでしょうか。私たちはもつと西洋建築の古典的な伝統をも理解すべきではないのでしょうか。私はそれを強く感ずるのです。

ヨーロッパの近代建築は、その出発にあつて、あまり伝統の意識をもつていませんでした；否むしろ伝統から離脱しようときえました。その理論づけらしく見えるものはグロピウスの国際建築の論でしょう。グロピウスは必ずしも建築における伝統を否定したのでないにしても、今日伝統の問題がとり上げられる一つの動機は国際建築の論に現われているような抽象的な合理主義への反省ではないのでしょうか。グロピウスは極めて素朴に個人・民族・人類を一平面上の三つの同心円に配列して、順次他を包摂するものと考え、個人とか民族とかの伝統を負うものを人類という無差別の世界に解消することによつて、国際建築の名のもとに伝統的に無差別な建築をみたと思つていました。しかし、はたして個人・民族・人類の三者関係はこのように同心円的でしょうか。そうではない。伝統を負つた個人は、恰も独裁の真棒のように人類という円板に対して直角に交ると考える図形の方がより真らしいと私は考えます。勿論、グロピウスの著書「国際建築」に載せられている個々の作品に現代建築が共有するものを見ることができず；それと同時に私はそのなかに異つた伝統を感ずることもできるのです。このことは建築的伝統は自然に作品の上に現われるものだという楽天的な見解を是認しているのではありません。伝統そのものの建築における役割はまた別に論ぜらるべきでしょう。

(筆者 京都大学教授)

建築・音楽

竹 内 成 夫

我々は物理学で自然音階と加減音階を学んだ。現在の楽器の内、ピアノの様にKeyを有するものはすべて加減音階によつてつくられている。楽器はすべて自然音階でつくられるべきであるが、ハ調とかト調とか、同じ調子で演奏されるのならかまわないけれども変調すると演奏に困る。自然音階によるピアノを製作した日本人がいたそうであるが、とても演奏が困難で、遂に一般化されることなく終つたそうであつて、今日では1オクターブを等分した加減音階によるピアノが普及されている。これは自然音階にくらべて、その誤差は僅少で、実際は大した不快感もなく、立派に楽器としての使命を果たしているのである。

我々の感覚は非常に鈍感な面がある一方、鋭敏な面があるものだ。シューベルトの有名な歌曲「セレナーデ」は私の好きな歌曲の一つであるが、この曲は「未完成交響楽」という映画が上映されて以来有名になり、殆んど知らぬ人はいない位になつた。しかし以前は音楽会などでもあまり歌われなかつたし、一般には知る人も少なかつた。私は石倉小三郎氏の訳詞「友よ我が歌めでしらばきませや春野の月おぼろ、小川のせせらぎ身にしめて、夕ぐれ静かに語らまし……」という名調子にすつかり魅せられて楽譜をたよりにピアノに合せて練習したものだが、一番最後の音がどうしてもうまく歌えない。ピアノを叩いても、どうしてもおかしいのである。F sharpの音が、何回くり返してもだめである。「未完成交響楽」を見るまで解らなかつたのだが、はじめてエガルトの歌うのをきいて「なるほど」と思つた。ほんの僅かのちがいで音楽になつた。この時ようやく加減音階と自然音階の差がわかつた様な気がした。自然音階によるF sharpと、ピアノの加減音とは、別々にきけば我々には解らないのであるが、一連の旋律としてきけば、はつきり区別がつくということはこの例以外にもしばしば経験する。

音についてと同様のことが色についてもいえる。最近色彩調節の研究が盛んになつて、建築物の色彩が、心理学的に、科学的に決定されるようになったが、色を表わす一つの方式に、マンセル記号というのがある。色相と明度と彩度とをもつてその色をあらわすのであつて、これによつて分けられる色の種類は数えきれぬ程の多数になる。併しこの細かく分類された色見本と実際塗られた色とを比べて見ると、同じ色が殆んど見出されないことに驚かされる。また見本と同じ色を出そうと思つても、仲々困難である。人間の視覚というものも鋭敏なものだと思つて思ふ。しかしこれらの類似の色を別々に見ると、もう全く区別がつかないのである。どれもこれも同じ色に見え、ただ一言「うす緑」などという言葉でごまかしてしまふ。そしてこれらの色の組合せによる効果がこの別々に見れば区別の出来ない色をはつきりあらはし驚くばかりの効果をあげることは、しばしば経験されることである。

建築物の色とか形の調和は、かくもするどい人々の直感によつて一刀両断に判定が下れる。誠に恐ろしいことである。今日まで数多く作曲された音楽の内所謂名曲として、百年、二百年後の今日まで、変ることなく人々に愛されて来たものをのぞいては、幾何に多くの曲が時の流れとともに消え去つていくことであろうか。しかし建築は、どんなにまずい作品でも後世に残る。或は人々の悪評を一身に受けながら、或は全然その存在を無視されながら、それでも天災地変によつて壊れない限り、いつまでもその姿を公衆の面前にさらしてなければならぬ。我々建築家はその意味においても大きな責任を感じる。古今の名曲の様に「凍れる音楽」として、後世の人々に、生命への喜びと、偉大への讃美とを与えつづけるような建築作品第125番＝短調の創造もまた至難のわざである。

(筆者 大阪府営繕課長)

杭

特 許

武智式鉄筋混凝土杭基礎工
日信三角型鉄筋混凝土杭基礎工
コンボジット・パイル(長尺練杭)基礎工
測量・地質調査・地耐力測定施工

特 長 砂利充填による特殊施工法
支持力強大。工事迅速。工費低廉

説明書及び防潮
富上、盛土地帯
に於ける実績表
進呈

株式会社 武 智 工 務 所

取締役社長 福 留 並 喜
大阪市西区西長堀北通四丁目一〇 細野ビル三六号
電話新町⑨九九五～九九八番

横 尾 義 貫* 北 村 修**

§ 序

シャーレの解法といえは難しい式の羅列や、うんざりする数表が出てきて読む人を辟易させる。そこでここでは平易なシャーレの応力の話を中心してみよう。

話のすじは大約 Architectural Record Sept. 1954. に米国構造界の巨匠 Mario G. Salvadori の書いたものを基にしたものでおおよそその応力を見当つけるのには役立つものと思う。

§ シャーレの応力の特徴

いまここに図-1のように1本の wire を架渡してみる。この場合数百mに及ぶ長さの自重を細い断面で支持することも容易である。このときの wire の応力は御承知のように引張力だけで、その大きさは弧線の最底部で

$$T = wR \quad [t] \quad (1)$$

ここに w = wire 自重 [t/m], R = 最底部の曲率半径 [m] である。この式から判るように、wire をたるませると R が小さくなり T の値を小さくすることができる。従つて適当なたるみをもたせれば、小さな海峡でも一またぎすることが可能である。

シャーレの応力はこの wire の応力によく似ている。図-2 のようにシャーレから四角な片を切りだしてみると、各辺に直角に、wire の T に相当する T_x, T_y が働いている。シャーレの場合はこのほかに剪断力 S をともな

う。ともかく wire の応力が弧線にそつて働く力 T だけであるようにシャーレの応力は面内に働く T_x, T_y 及び S であると考えることができる。このような考え方を薄膜理論 membran theory といい、こうして求められる応力を薄膜力と呼んでいる。面内に働く力だけしかもたない点が石鹸膜等と似ているからこんな名前と呼ばれるのである。

一方、シャーレは微弱ながらスラブのような作用もする。そして曲げモーメントと面に直角に働く剪断力が生じることもある。けれどもこの応力はあまり大きくなくかつシャーレの周辺附近に限られ局部的なものである。この応力を求める理論を曲げ理論 bending theory といつている。シャーレの応力計算は一般に、まず薄膜力を求めてこれで周辺附近をのぞいた部分の設計に用い、周辺附近に対しては曲げ理論で応力を修正する。ただ円筒シャーレ屋根のようにアーチ作用に対する支持が十分でない場合は例外で、薄膜力は実際の状態とずいぶん違った結果を与えることが多い。

§ 円筒シャーレ Cylindrical Shells

まず、工場の屋根等によく用いられている、いわゆる Barrel Vault 型式の円筒シャーレの応力の話をしてしよう。この型式のシャーレは両支持端には妻壁か、アーチ状ラーメンを設けて支持するのが普通である。(図-3)

図-1

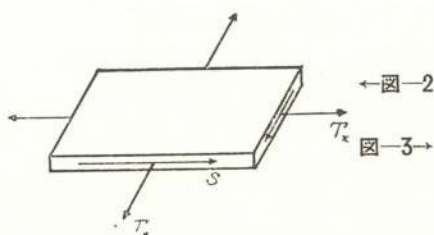
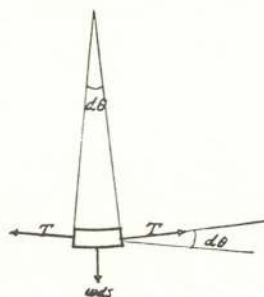
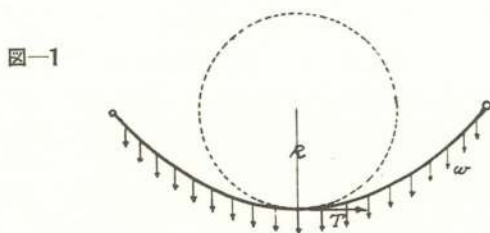
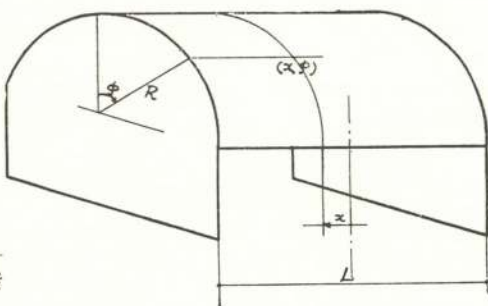


図-2

図-3



* 京大防災研究所, 工博, 1954年度建築学会賞受賞者
** 倉敷レイヨン営繕部

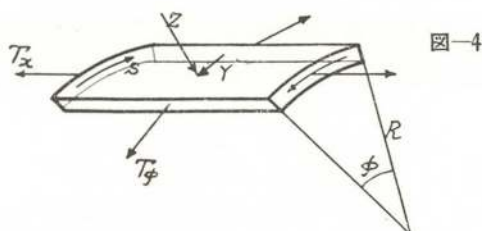


図-4

また両側面に縁梁 edge beam を付けると応力を軽減できるので、円筒シャーレには縁梁がよく設けられる。さてこのような円筒シャーレは前にも述べたように薄膜力では実際の応力とかなり異なった値を与えるおそれがあるので、精確な値を得ようと思えばめんどろな曲げ理論の計算をしなければならない。それには ASCE Manual No. 31 の Table による方法だとか、long shell 向きの Schorer 法、short shell 向きの Zerna 法等かなり実用的な方法もあるが、それにふれることは本旨からはずれるので、ここでは応力のおよその見当をつける資料になるようなことをのべよう。

まず円筒シャーレから図-4に示したような矩形片を切りだすと、縦方向力 T_x 、横方向力 T_ϕ と剪断力 S とが働いている。これを求めるのにも一般には曲げ理論の助けをかりなければならぬのだが、幸い半円形シャーレが雪荷重 p [t/m² 水平面につき] を受ける場合は薄膜理論から精確な値がえられ、簡単な式で表わされるのでこれを示そう。

$$T_\phi = -pR \cos^2 \phi \quad [\text{t/m}] \quad (2)$$

$$T_x = -\frac{3}{2}pR \left(\frac{L}{R}\right)^2 \left[\frac{1}{4} - \left(\frac{x}{L}\right)^2\right] \cos 2\phi \quad [\text{t/m}] \quad (3)$$

$$S = -\frac{3}{2}pR \left(\frac{x}{R}\right) \sin 2\phi \quad [\text{t/m}] \quad (4)$$

最大値だけ示すと

$$T_{\phi \max} = -pR \quad (\text{頂点}) \quad (5)$$

$$T_{x \max} = \pm \frac{3}{8}pR \left(\frac{L}{R}\right)^2 \quad (\text{スパン中央の頂点及び縁辺}) \quad (6)$$

$$S_{\max} = \pm \frac{3}{2}pL \quad (\text{支持端の縁辺}) \quad (7)$$

ここに R = 円筒半径 [m] L = スパン [m]

ϕ = 頂点から下縁にむかつて測った円の中心角

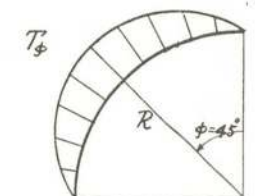
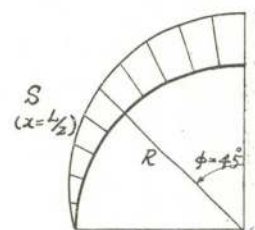
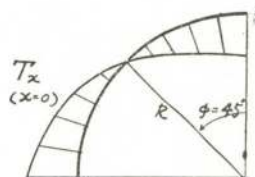
x = スパン中央からの水平距離 [m]

円弧方向の分布を図に画いてみると図-5のようになる。これからわかるように T_ϕ は常に圧縮力であり、(5) 式が wire に対する (1) 式と同形であることに注意されたい。 T_x は $\phi = 45^\circ$ の点で 0 となりそれより上では圧縮、下では引張りとなつてゐる。 S は $\phi = 45^\circ$ で最大値をとつてゐる。

x 方向には T_ϕ は一定でありどこでも同じ値をとり、 T_x はパラボラ、 S は一次分布をしており、ちょうど単純梁の M , Q の分布と同形である。

自重 w [t/m² 面にそつて] の場合はもはや薄膜理論

図-5



では実際と異なる値を与えるが、大体の値は雪荷重の場合の式で、十分見当をつけることができる。ただこの際 T_ϕ に対しては $p=w$ としてよいが、 T_x , S を求めるには $p = \frac{\pi w}{2}$ とし計算した方がよからう。

風を受ける場合の応力は半円シャーレではおよその見当値として、次の値を用いる。

$$T_{x \max} = \pm \frac{1}{4\pi} p w \frac{L^2}{R} \quad (8)$$

$$S_{\max} = + \frac{2}{\pi} p w L \quad (9)$$

ここに $p w$ [t/m²] は規定から与えられる風圧である。この値は小さな値である上に、半円シャーレが横荷重を受けるものとして計算されたものであるが、実際には負圧がかかり全体として風は吸上げるように作用し、自重と消しあうので影響はもつと小さい。そこで無視してもさしつかえない。スパンに直角方向の地震力の影響も同様に小さい。

応力の大体の大きさを知るためにいま半径 $R=10\text{m}$ 、スパン $L=20\text{m}$ 、厚さ $h=0.1\text{m}$ のシャーレ、をとり、自重に対して応力の最大値を計算してみよう。

$$w = 2.4 \times 0.1 = 0.24 \text{ t/m}^2$$

(5) 式から、 $p=0.24$ とし

$$T_{\phi \max} = -0.24 \times 10 = -2.4 \text{ t/m}$$

$$\text{又 } p = 0.24 \times \frac{3.14}{2} = 0.38 \text{ t/m}^2 \text{ とし}$$

(6), (7) 式から、

$$T_{x \max} = \pm \frac{3}{8} \times 0.38 \times 10 \times \left(\frac{20}{10}\right)^2 = \pm 5.7 \text{ t/m}$$

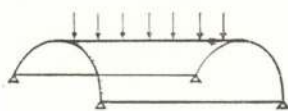


図-6

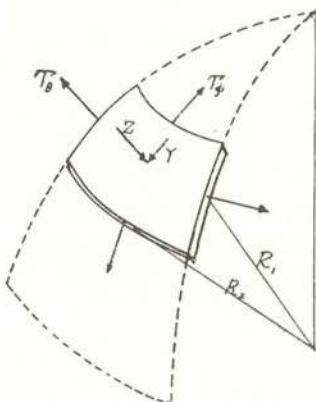


図-7

$$S_{max} = \pm \frac{3}{2} \times 0.38 \times 20 = \pm 11.4 \text{ t/m}$$

半円形に近い円筒シャーレでは上のようにして、見当がつけられるが、そうでない場合はシャーレの横断面の形状と同じ断面をもつ単純梁(図-6)として見当をつけることができる。これがいわゆる梁理論である。単純梁の σ_x, τ を求めるのと同様にして

$$T_x = -\frac{M}{(I/h)}y, \quad S = \frac{QG_y}{I} \quad (10)$$

ここに M, Q = スパン L の単純梁の曲げモーメント及び剪断力。 h = シャーレ厚 [m]

y = 横断面の重心軸からの鉛直距離(上向き正) [m]

I = 横断面の重心軸に関する断面2次モーメント [m⁴]

G_y = 横断面の y より上の部分の重心軸に関する一次モーメント [m³]

T_ϕ の値は (2), (5) で見当つけてさしつかえない。

(10) の値は long shell であるほど精確で $R/L \leq 0.2$ というような long shell では充分精確である。また円弧の開角が大きいほど、縁梁の丈が高いほど、また単独シャーレの場合より並列シャーレの場合の方が精確である。半円シャーレでは前出の式と同じ結果を与える。自由辺の場合は誤差が大きい。

short shell では T_ϕ が主な応力となり、flat な short shell では slab 作用がかなり顕著になってくる。曲げ応力については、のちにのべる。

§ 球面ドーム

球面に作用している応力は図-7に示したように経線力 T_ϕ と緯線力 T_θ と剪断力 S である。荷重の法線方向分力を Z [内向きを正, t/m² 曲面につき] とすると wire の場合の (1) 式に相当する式として

$$T_\phi + T_\theta + RZ = 0 \quad (11)$$

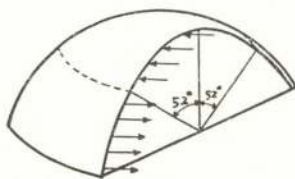


図-8

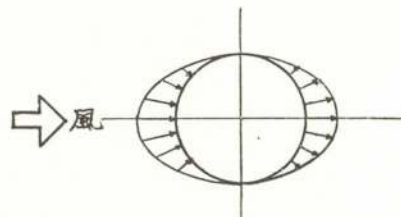


図-9

R = 球面半径 [m]

自重、雪荷重は対称軸であるから当然 $S = 0$ となり、 T_ϕ は、その働いている緯線から上の部分全体の重量 W [t] との釣り合いから、容易に求めることができる。

自重 w [t/m²] に対しては

$$T_\phi = -W / (2\pi R \cdot \sin^2 \phi) \\ = 2\pi w R^2 (1 - \cos \phi) / (2\pi R \cdot \sin^2 \phi) \quad (12)$$

半球面とすると

$$\phi = 90^\circ \text{ (即ちすそに於て)}$$

$$T_\phi = -wR \text{ (圧縮)}$$

(12) より

$$T_\theta = -RZ - T_\phi = [-Rw \cos \phi - (-wR \frac{1 - \cos \phi}{\sin^2 \phi})] \\ = wR \text{ (引張)}$$

$$\phi = 0^\circ \text{ (即ち頂点に於て)} \quad T_\phi = T_\theta = -\frac{wR}{2}$$

T_θ の値は $\phi = 52^\circ$ から上では圧縮、下では引張りとなっていることに注目されたい。(図-8) $T_\theta = 0$ となる緯線はドイツ語で Bruchfuge とよばれているもので、これより上の部分のみをシャーレに用いると T_θ が圧縮であり、すそは縮もうとする傾向をもつ、シャーレが Bruchfuge をふくむときは、すそで T_θ は引張りとなり拡がろうとする。

雪荷重 p [t/m²] に対しては $\phi = 90^\circ$ の所で

$T_\theta = -T_\phi = pR/2$ となり Bruchfuge は $\phi = 45^\circ$ に現われる。

半球面が風圧 p_w [t/m²] をうけると(図-9)、すそ($\phi = 90^\circ$)には T_ϕ は生じないで、 S のみが作用し、その最大値は $S_{max} = \frac{2}{3} p_w R$ (13)

で計算できる。

半径 $R = 20$ m, 厚さ $h = 0.1$ m の半球ドームとすると自重により、頂点で

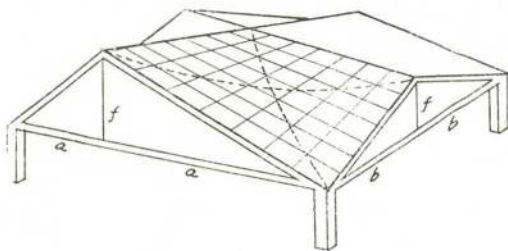
$$T_\phi = T_\theta = -2.4 \times 0.1 \times 20 / 2 = -2.4 \text{ t/m}$$

すそで $T_\theta = -T_\phi = 4.8$ t/m でありかなり小さな値であることがわかる。

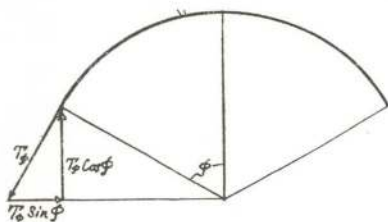
又周辺付近には曲げ応力を生じるが、これはのちに周辺応力の項でのべよう。

§ くら形シャーレ

ここにくら形シャーレ Saddle Surfaces というのは hypabolic paraboloid — 葉双曲面のことである。御承知のようにこの曲面は2群の母線から織りなされる曲面



図—10



←図—12

で、ここに取り扱おうとするのは、図—10のように面積 $2a \times 2b$ の矩形平面に架渡する屋根として用いられるもので、4つの Unit から構成されている。その1つの Unit がおのおの hyperbolic paraboloid の一部分からなり四辺がすべて母線と一致している。

このシャーレの主応力は Unit の対角線方向に作用し自重 $w[t/m^2]$ に対する大きさは次式で与えられる。

$$T_x = wab/2f \quad T_y = -wab/2f \quad [t/m] \quad (14)$$

ここに $f = \text{rise} [m]$, $a, b = \text{辺長} [m]$ (図10参照) とすると、(14) からわかるように T_x と T_y とは大きさが等しく、おまけに面上いたるところで上記の値をとるのであるから応力的に言つて 100% の over-all efficiency をもつものといふことができる。通常 rise が低いから、雪荷重に対する値も (14) で計算してさしつかえない。

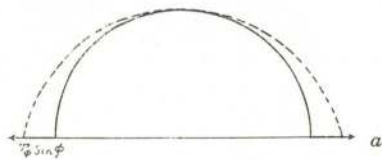
応力の伝わり方は次のように理解することができる。頂点から下の隅角へむかう方向すなわち y 方向に張られたアーチと、左右隅角をむすぶ方向すなわち x 方向に張られたケーブルとがあつてそれぞれが同じ力を分担して協働し周辺まで力を伝えているとみることができる。周辺では剪断力だけが働きその大きさは

$$S = wab/2f \quad [t/m] \quad (15)$$

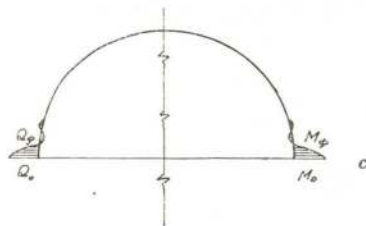
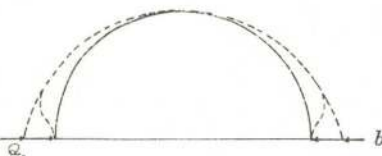
である。周辺に設けられる縁材には結局軸方向力だけしか働かない。したがつて4つの Unit が接する稜線はトラスあるいは梁で支える必要はないのである。

風の影響は通常 rise が低く flat に近いから無視してよい。

100% の効率、計算の簡潔さ、及び母線が直線である



図—11 →



ので形が作り易いこと等の理由で ideal なシャーレとされている。

§ 周辺応力

まずドームの場合として、半球面を考えてみよう。半球面は自重によつて前にのべたように $\phi = 90^\circ$ なるすそで、緯線方向に $T_\theta = wR$ なる引張力を生じる。このためにすその円は伸び、半径は拡がらうとする。また

$T_\phi = -wR$ なる鉛直方向の圧縮力が働くことになる。今、すそを支える鉛直な壁があり、しかもその壁の頂が水平方向にきわめて撓みやすく自由に動きうるように造られているものとすれば、——壁に多数の鉛直な slit を設けるなどして—— T_ϕ は壁からの鉛直反力と balance することができ、 T_θ による半径の拡がりも妨げられないから前にのべた薄膜状態がすそに至るまで生じることになる。しかしこのような場合はまれで、実際には、すその水平の動きが妨げられることが多い。すそには内向きの水平反力 Q_0 が働き、また曲げモーメント M_0 が作用して、シャーレのすそを原位置へかえし、 Q_0, M_0 が経線方向の切線の回転を阻む。これによつて周辺付近には曲げ応力が発生することになる。(図—11)。

また開角が 90° より小さい球面を鉛直に支持した場合(図—12)、 T_ϕ の鉛直分力は壁からの反力と balance することができるが、水平分力に balance する反力はない。このためにもやはり周辺付近に曲げ応力が生じる。

このように周辺付近に生じる曲げ応力は、周辺付近の力の unbalance あるいは変形の阻止によつておこるものである。そしてこの曲げ応力は面内深くには及ばず周辺付近の応力状態を乱すだけである。それ故に

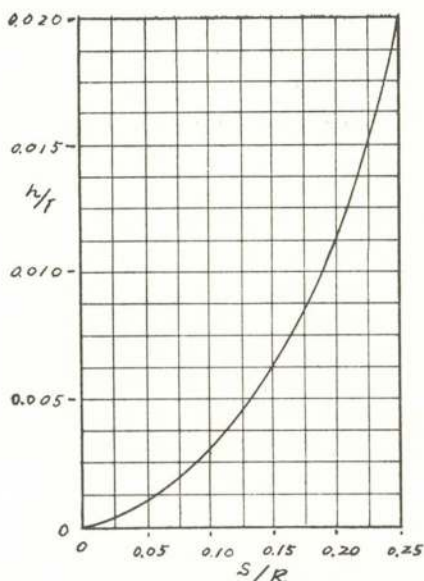


図-13

“boundary disturbance”「周辺の乱れ」とよばれるのである。

周辺の乱れが局部的であることは St. Venant の原理からも説明できる。例えば半球面で示した周辺の円上に作用する Q_0 は全体としてそれ自身釣合つた力であるからその影響は周辺から遠くへは及ばぬと云うことができる。

周辺から面内へ伝わる曲げモーメント M 、剪断力(面に直角な方向に作用する) Q は、周辺から内へむかつて減衰波状をなして伝播するものである。(図11(c))。

さてこれらの曲げ応力の大体の見当をつけるために半球のすそが固定の場合のすそにおける曲げモーメントを示してみると、次のような値である。

$$M = 0.1443 p h R \quad [\text{tm/m}] \quad (16)$$

ここに p = 等布荷重 $[\text{t/m}^2]$ 、自重も p の値の中に含ませておく。 h = シャーレ厚 $[\text{m}]$ 、 R = 球半径 $[\text{m}]$

温度分布の差及び収縮が生じると、やはり曲げ応力を生じる。温度差、及び収縮によるすその水平変位を d とすると、これを阻止することにより生じる曲げモーメントは $M = 0.2886 E h^2 d / R \quad [\text{tm/m}] \quad (17)$

から計算される。ここに E = コンクリートの弾性係数

以上の諸値は多くのドームに対して安全側の値を与えるものであるから、その曲げ応力の check に応用することができよう。

周辺付近の曲げ応力の及ぶ範囲は大体次式で与えられる。 $S = 1.8 \sqrt{R h} \quad [\text{m}] \quad (18)$

これをグラフにすると 図-13 がえられる。

$h/R = 1/100$ とすれば $S = 0.18R$ 、 $h/R = 1/500$ とすれば $0.08R$ に減じる。

いま例として $R = 20\text{m}$ 、 $h = 0.1\text{m}$ なる半球面を考えてみると、

$$p = \text{全重量} / \text{底面積} = 2\pi w R^2 / \pi R^2 = 2w \\ = 2 \times 0.24 = 0.48 \text{ t/m}^2$$

$$(16) \text{ より } M = 0.1443 \times 0.48 \times 0.1 \times 20 = 0.14 \text{ tm/m}$$

$$(18) \text{ より } S = 1.8 \sqrt{20 \times 0.1} = 1.8 \times 1.414 = 2.55\text{m}$$

即ちすそから 2.5m のあたりまで曲げ応力の影響があることがわかる。

次に円筒シャーレの曲げ応力についてのべよう。円筒シャーレの曲げ応力の生じる原因は2つある。1つはスパン方向の辺からくるもの、他は支持端の妻壁あるいはラーメン (Stiffener とよばれる) からくる disturbance である。前者はほとんどシャーレ全面に影響し、このため面内力も薄膜理論では殆んど推定できない程であることはすでにのべた通りである。ただ short shell になればなるほど、影響域はせばまる。この disturbance による曲げモーメント M_ϕ は設計に若干の影響をもつが簡単な公式では表わせない。しかし ASCE Manuals No. 31 の Table から比較的簡単に計算できる。

他の理由によるスパン方向辺からの disturbance もある。たとえば厚い縁梁とシャーレとの間に収縮の差がある場合等がそれである。いま半径方向の変位の差を d とするとき大約の値は先述の (17) 式で見当つけてよからう。

他に stiffener からくる disturbance もあるがこの影響は面内へ深く及ばず局部的である。この問題は次のように考える。まず stiffener を剛とし、[1] T_ϕ (圧縮) によつて縮んでいるシャーレの周辺を剛な stiffener に連続するまでおしひろげる。[2] 次に有効巾として stiffener の接すシャーレから次の巾

$$b_e = 0.38 \sqrt{R h} \quad [\text{m}] \quad (19)$$

をとり stiffener の断面に加えた断面 (図-14) をもつラーメンとしてシャーレ荷重を支えるものとする。そこでシャーレに働く曲げモーメントは、まず [1] の状態にてシャーレ周辺のおしひろげにより生じ、その値は

$$M = 0.28 h T_\phi \quad [\text{tm/m}] \quad (20)$$

次に [2] の段階の計算からえられるシャーレとの接続部の stiffener の応力度を f_ϕ とすると、この段階ではスチフナーが収縮するからこのために

$$M = -0.28 h^2 f_\phi \quad [\text{tm/m}] \quad (21)$$

となる。結局 (20)、(21) を重合した値をとる。

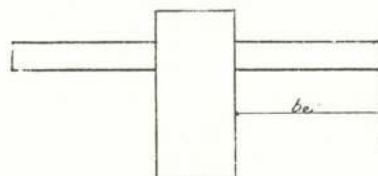


図-14

温度差、収縮による曲げ応力も同様にして次式から計算できる。

$$M=0.28Eh^2\Delta\epsilon_{\phi} \quad [\text{tm/m}] \quad (22)$$

ここに $\Delta\epsilon_{\phi}$ は stiffener とシャーレの歪の差である。

§ シャーレの挫屈

圧縮力をうける薄い構造物は、すべて挫屈の危険がある。シャーレも薄くなるとこのおそれがあるので、その検討が必要である。シャーレの挫屈理論は非常にめんどうなものであるが、幸い大ざっぱな check する式を与えることは困難でない。挫屈による破壊は非常に危険であるからその check は重要である。

球面あるいは回転面では次の局部挫屈応力度で check すればよろしい。

$$f_{cr}=0.58 Eh/R \quad (23)$$

安全率を3にとると

$$f_{cr}=0.2 Eh/R \quad (24)$$

シャーレの最大圧縮応力度が上記の値をこえなければよろしい。

円筒シャーレでは、long shell については縦方向力 T_x による頂点における圧縮応力度が次の値をこえないようにする。

$$f_{cr}=0.2 Eh/R \quad (25)$$

short shell に対しては横方向力 T_{ϕ} による $f_{\phi}=T_{\phi}/h$ が問題となり次の Lundgren 式で吟味すればよい。

$$f_{\phi cr}=f_T/\left[1+\frac{200+f_T}{500,000}\left(\frac{L}{h}\right)\sqrt{\frac{R}{h}}\right]$$

ここに f_T はコンクリート 28 日強度 $[\text{kg/cm}^2]$ 。ただし安全率は3にとれば十分であろう。

Lundgren の式はくろ形シャーレその他に適用してもよいであろう。ただしこの場合引張力の作用によつてシャーレの強度はこれよりはるかに高いだろうから、安全率をもつと小さくしてもよい。(以上)

日建協合同大会ニュース

建設産業職組の大同団結への前進

日本建設産業職員労働組合協議会（日建協）では、去年12月12日、国鉄労働会館において、合同大会が開かれここに大同団結をめざして一大前進をとげることになった。以下その大会のもようをお知らせする。

出席単組名はつぎの16職労組であつた。

井上工業職員組合	藤田組職員組合
間組職員労働組合	馬淵従業員労働組合
戸田組職員組合	鴻池組労働組合
大林組職員組合	鉄道建設興業職員組合
大日本土木職員労働組合	安藤組職員組合
大成建設社員組合	佐藤工業職員労働組合
清水建設職員組合	木田建業職員労働組合
高野建設職員組合	島藤建設職員組合

オブザーバー 竹中工務店職員組合

この合同大会において、経過報告ののち

1. 建設職組の全国組織成立の方針
1. 建設産業の封建性を打破しよう
1. 日建協の団結を強化しよう
1. 建設労働者の社会的地位を向上しよう
1. 建設産業を我々の手で防禦しよう

の大会スローガンが採択された。

続いて、綱領案審議に入りつぎの綱領が決定された。

綱 領

1. 戦線の統一

われわれは、自由にして民主的な建設産業職員労働組合を結集し、団結の強化を期する。

1. 生活権の確保

われわれは、労働者としての、基本的権利に基づき、健全な組合運動によつて労働条件の維持改善を図り、経済的社会的地位の向上を期する。

決 議 文

わが建設産業職員労働組合は全国的大同団結のため多年にわたり努力を重ねてきたが、本日ここに実を結び念願の全国組織の結成をみるにいたつたことは感激にたえない。

われわれの組合は個々の相異はあるにせよ、働くものとしての共通基盤においてはなんら異なりなく、この点において全日本、全世界の労働者とともに手を握り前進する道が開かれた。

こんご日建協はあらゆる困難をのりこえてこの組織を守り永久に発展させなければならない。

右決議する

昭和29年12月12日

日本建設産業職員労働組合協議会合同大会

1. 産業の民主化

われわれは、建設産業の民主化を促進し、もつて日本経済の発展を期する。

続いて、規約・運動方針・予算案の審議したのち、つぎの役員が選出された。

議長 内海 高治（安藤職組）

副議長 志賀 竜雄（清水職組）
松尾 茂治（大林職組）

事務局長 早川 方行（間職労組）

執行委員 今川芳夫（藤田職組） 渡会正彦（大成社組）

塚口良一（戸田職組） 水嶋信一（佐藤職労組）

下村 豊（鴻池労組） 高橋利夫（鉄建職組）

ついで新役員の就任あいさつがあつたのち、日本ILO協会加盟を決議し、また上記の大会決議文を採択した。

本 会 活 動 報 告 (会報) —11月分—

理 事 会 25日 4時—5時半 於朝日ビル

竹腰会長 伊東副会長外7名 事務局3名出席

議案 (1)東海支部の地域に当分連絡事務所を設置の件は設置場所、委嘱連絡委員名など事務局提案の通り決議 (2)会員入退会詮衡の件を審議の後「不燃建築と新材料」の各地方講習会開催状況、各委員会の経過、10月分会計状況、大和前常務理事退職金募集状況など各担当者より報告が行われた。

評議員会 29日 3時—4時 於朝日ビル

鈴木評議員会議長外5名 委任状49名 計55名外に理事6名 事務局3名出席

定刻 鈴木議長議長席に着き開会を宣した後事務局より説明の明年度選出の評議員数について審議事務局説明案の通りに決議した。

工事請負契約々委員会

第11回 2日 2時—5時40分 於朝日ビル

田辺幹事外4名 事務局2名出席

議事 前回岡田委員に修正依頼の第5条、第6条より討議に入り第9条、第10条、第11条迄討議をなす。

第12回 16日 2時—5時 於朝日ビル

尾崎委員長外4名 事務局1名出席

議事 第12条より第14条まで討議する。

第13回 22日 2時—5時 於朝日ビル

尾崎委員長外4名 事務局2名出席

議事 第15条より第23条まで討議する。

編集委員会 13日 午後2時—5時 於朝日ビル

出席者：浦辺委員長外5名 (事務局共)

つぎの通り審議した。

1. 11月号経過報告

2. 12月号企画報告 作品作風として岸和田市庁舎、松下商店、興和ビル、倉レ岡山アパートをけいさい。本文としてクライアントからみた建築特集として井口竹次郎氏外の玉稿をけいさい。建築の眼、紫煙室検討

3. 1月号企画 作品作風として各候補作品を詮考。本文を「日本の建築的伝統」特集として西山卯三氏その他の方々に執筆依頼。技術講座は「シャーレの話」を企画。4. 2月号企画 (横尾委員一任)

住宅委員会小委員会 (住い方)

18日 5時—8時 於朝日ビル 白木主査外3名出席

議事 住い方に関する問題は非常に広範囲なるため、先づ住い方の研究資料索引を作成することに意見一致、その資料出発点を終戦後に置くことに決定。それぞれ分担を定めて散開した。

住宅委員会本委員会 (建築家の住宅を見学)

28日 午前10時—午後8時 於豊中 (小林・赤松・浅

田各邸) 曾根 (中野邸) 中野委員長 外7名出席、一同阪急豊中ホームに集合し先づ小林邸を訪問種々拝

見小憩後赤松邸を訪問見学後昼食を取り次は建築中の浅田邸を見学せり。最後に曾根の中野邸を訪問細部くまなく見学後夕食を取りし後11月分の会議を始め、高石町府営住宅の問題を討議、施工者との座談会を12月に開催することを申す。更に続いて建物保全パンフレットについて討議され竹内委員より洗濯物の研究の必要を強調される等種々意見交換8時に至り散開せり。

第5回「建築技術教育座談会」 6日 於今橋クラブ

出席者 隅谷一郎 (大林組)、佐藤寛二 (竹中工務店) 柴垣貴雄 (野村建設)、中塚二郎 (大幸建設)、浅井貞次 (竹腰建築)、棟居幸一 (日建)、五百蔵芳明 (府建築部)、多屋幹夫 (近畿地建)、松浦潤一郎 (日毛)、司会 中野順次郎、鷺尾健三

標記座談会は過去4回に亘り各職場各層の方々の御出席を得て、2年余り開催したものであつたが、今回は前回までに御出席願へなかつた、35才—40才の方々にお集りを願つて開催したものであつた。活潑な話題は約5時間にもなつた。(当日の記録は「建築と社会」3月号に掲載予定である)

教育委員会 (5回) 17日 於朝日ビル

手島常務より中国・九州地方での講習会の経過報告があつた。第5回「建築技術教育座談会」記録の編集を中野委員に、「建築と社会」誌上には時機を失せない頃に掲載方を編集委員会に申入れることを決定。鷺尾委員長より委員長辞任申出があつたが、一度保留することになつた。事業企画小委員会編成、継続事業としての「コンクリート技能講座」について今回開催の経過をとりいれて次年度開催について検討するため、その他事業について、小委員会設置、益尾主査、横尾、足立、谷口、佐藤小西、角田の諸氏で構成することとなり、来年初め初会合を催すこととなつた。

桂離宮見学会 10日 午前11時—1時 28名参加

秋、恒例の標記見学会は多数会員の参加で催された。まづ説明係より説明を聴きながら、書院を見学、つぎに庭園を廻る、松翠亭等では小堀遠州の作に大きな感銘を受け、午後1時頃見学を終り同所前で解散した。

修学院離宮・仁和寺・高山寺見学会 22日 27名参加

午前10時京都駅西口集合、京阪バスで修学院離宮に到着、係員の先導で下、中、上の茶屋を順次説明を受け見学す。自然の風景を取り入れた庭園美、簡素な茶室建物等飽かず約1時間観賞したのち、バスで御室仁和寺に向う。一同同寺で中食を摂り係僧侶の案内で書院、茶室等を観、有名な御室の桜、金堂等境内を一巡記念撮影をなし同寺を辞し、高尾高山寺に向い、堂上より溪間の紅葉を観賞、3時30分過ぎ同寺を出発帰途に着く、京都駅にて4時頃解散した。

コンクリート施工講座並びに 不燃建築と新材料

今夏大阪第一生命ビルに於て開催したコンクリート施工技能講座は非常な好評を博し其後京都・兵庫支部にても夫々開催盛況であつた。尙中国・九州・和歌山各支部にては誌上予告の通り、ブロック建築と新材料の説明紹介をもかね不燃建築と新材料と題し、更に之に関連せる映画を加へ11月1日～20日迄の間に於て岡山、広島、山口、戸畑、福岡、熊本、和歌山の七個所で一日乃至二日間夫々巡講した。

講師 コンクリート並にブロック建築について

阪大教授工博	奥島 正一氏	(材料, 試験)
神大教授工博	伴 潔氏	(調合, 構造)
大林組研究室	谷口 尙武氏	(工法)
〃	菅田 豊重氏	(〃)
竹中工務店技師長	日野 勝好氏	(〃)

建築材料関係

エスロンパイプ、積水ライト、タイルについて

積水化学工業KK 研究課長 西村 太郎氏

大型塵、合せ強化、断熱遮音硝子について

日本板硝子KK 研究課長 理博 大野 正巳氏

〃 若松工場試験課長 小笹 武夫氏

エマルジョン塗料について

川上塗料KK 営業課長 浜田 吉一氏

合成樹脂シンセイ、ウォルトンについて

東亜ペイントKK 製造課長 有阪 熊雄氏

リノリウムと新しい接着剤について

東洋リノリウムKK 本社営業課長 小早川隴男氏

〃 大阪営業課長 田村 鏡氏

シリコン剤エパータイトについて

昭和化工KK 営業課長 刈谷 広見氏

白色セメントについて

小野田セメントKK中央研究所次長 藤井 正一氏

〃 恒見工場長 吉岡 峻一氏

フライアッシュについて

宇部興産KK中央研究所部長 工博 渡辺幸三郎氏

〃 主任 梶井 基彦氏

以上は夫々サンプルを展示したか此外瞬間鋸打機

ドラゼット 阪部興業KK提供

トルナード 島野商事KK提供 も共に展示した。

以上終了後各地共下記16ミリ、トーキー映画を観覧した。

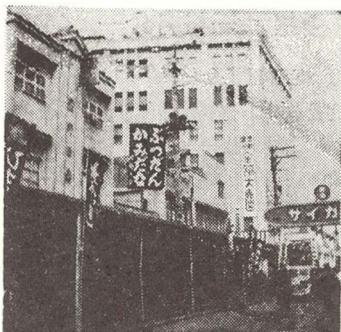
メタルフォーム 大林組提供 菅田、谷口講師概説

アメリカブロック建築施工 阪部興業KK提供説明

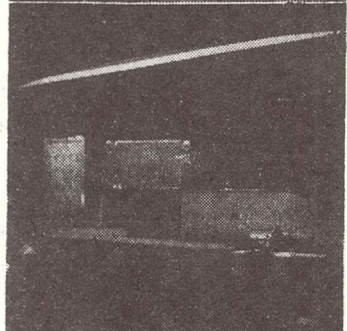
エスロンパイプ製造状況 積水化学工業KK提供トーキー

セメント製品彫刻展 小野田セメントKK提供説明

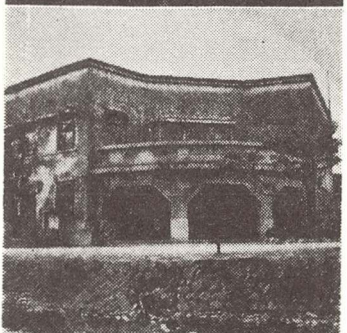
事務局 旧常務理事 大和栄衛 新任常務理事 手島政男、
書記長 沖田誠一 (広島、福岡のみ) 随行関係方面



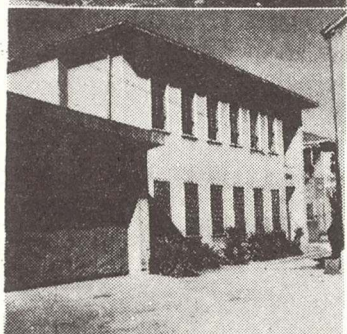
阪本会場・大洋デパート



同上会場内



山口会場・教育会館



福岡会場・建設会館



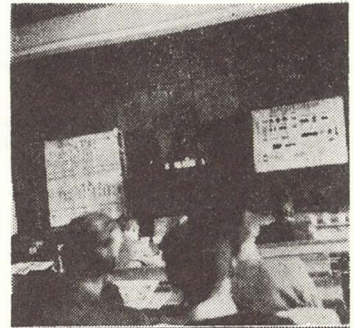
同上会場内

に就退任挨拶並に紹介、会務に関する打合せ等なした。

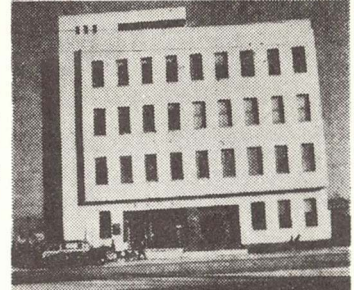
開催地	日時	会場	来聴者	講師	司会	開会閉会
岡山 (コンクリート 並にブロック 建築と新材料)	11, 1 2	建設会館 "	140人 "	奥島, 伴, 谷口 積水, 川上, リノリウム, 昭和, 日本板 字部, 小野田	内輪	大林 武 高原一秀
広島 (同上)	4 5	藤田ビル 講堂 "	130人 "	伴, 谷口, 奥島 エル型ブロック, リノリウム, 川上, 日本板, 積水, 宇部スレート 宇部興産	松田 奥井	古林義敦
戸畑 (同上)	6 7	市労働会館 "	70人 "	伴, 菅田, 奥島 積水, 東亜, 小野田, 昭和 日本板	草野	山田明一
福岡 (ブロック 建築と新材料)	8	建設会館	70人	奥島, 菅田, 伴, 積水, 東 亜, 日本板, 小野田, リノ リウム, 昭和	松崎 甫	薄 与莊 宮脇晴美
熊本 (同上)	10	大洋百貨店ホ ール	80人	奥島, 伴, 菅田, 積水, リノリウム, 昭和, 小野田	野中 実	河東義方
山口 (コンクリート 並にブロック 建築と新材料)	11 12	教育会館 "	70人 "	伴, 奥島, 菅 田, 積水, 川 上, 日本板, 小野田, リノ リウム, 宇部, 昭和	吉村卓美	上野誠朗
和歌山 (同上)	20	和歌山工業高校	70人	積水 日本板 奥島, 伴 谷口	栗林一馬	布袋国雄
京都支部 (コンクリート 施工のみ)	2 4 5 6	建設会館(講義) 京大建築研究所 (実習)	102人	奥島 井手正雄 岡田清		
兵庫支部 (同上)	16 17 18	建設業協会	71人	伴 潔 菅田豊重 森田康次 金子 豊 日野勝好	山内嘉兵衛	尾崎久助 吉田信武

以上の内京都、兵庫、岡山の三箇所は地元の要望に依り夫々終了証書を授与した。

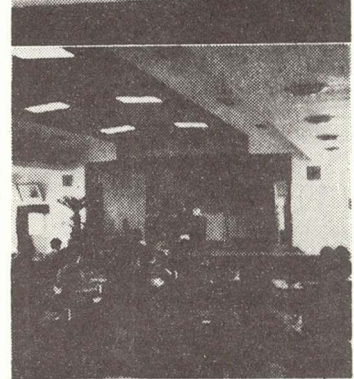
戸畑会場内・(労働会館)



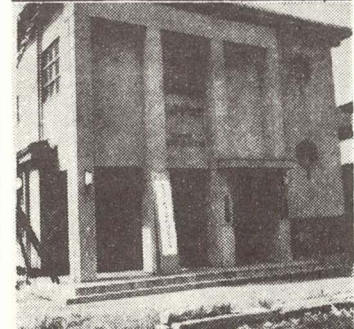
広島会場・藤田ビル



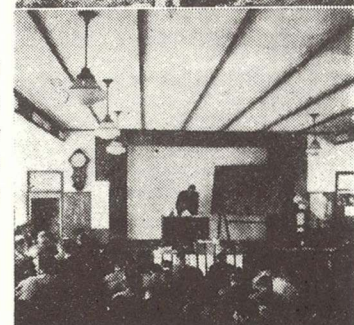
同上会場内



岡山会場・建設会館



同上会場内



大和前常務理事退職慰労金募集決算報告

さきに大和前常務理事に対する退職慰労金の募集について会員各位にお願い致しました処時節柄にも拘はりませず、各方面より多大の御賛同を得まして予期以上の額を御寄贈戴くことになりました、本人の感激はもとより我々発起人一同に於きましても各位の御芳志に対し感謝に堪えない次第でございます。茲に下記の通り決算報告を申し上げますと共に厚く御礼申し上げます。

昭和三十年一月

大和前常務理事退職慰労金募集実行委員長

東 畑 謙 三

記

- 一 金壹百六拾四万四千円也 御応募金総額
(内現在未収入金四千円也)
- 一 金参千参百六拾壹円也 同上預金利子
- 合計 金壹百六拾四万七千三百六拾壹円也

上記合計金を大和前常務理事に贈呈することと致しました。

以 上

大和前常務理事退職慰労金第四回申込者芳名

(前号統領収分)

小野田セメントKK 殿	2,000	竹内佐平治 殿	500
大阪建築事務所 殿	2,000	太宰二郎 殿	500
池田宮彦 殿	10,000	神田省三 殿	500
高橋慶夫 殿	3,000	清水栄二 殿	1,000
東畑建築事務所 殿	10,000	岡田孝男 殿	2,000
東畑謙三 殿	10,000	作間日出生 殿	1,000
伊丹久吉 殿	1,000	若木望太郎 殿	1,000
稗田治 殿	1,000	木村捨蔵 殿	1,000
道田泰治郎 殿	500	黒田茂 殿	1,000
星広文 殿	1,500	伊藤幸一 殿	500
日本セメント防水剤 殿	1,000	三友工業 KK 殿	1,000
薄与庄 殿	500	佐々木米太郎 殿	500
松崎甫 殿	500	渡実幸 殿	1,000
内外工業 KK 殿	2,000	大鳥居満也 殿	1,000
日本油脂 大阪支店 殿	2,000	大鳥居工業所 殿	2,000
宮脇晴美 殿	1,000	森田康次 殿	500
日本建築協会九州支部 殿	20,000	錦田直一 殿	500
広瀬清三郎商店 殿	2,000	宮銅克二 殿	1,000
岩元工業 KK 殿	2,000	旭化工板製造 殿	6,000
川島織物 KK 殿	2,000	野中駒市 殿	2,000
伊藤進 殿	500	吉崎源三郎 殿	2,000
高井久治 殿	500	日野勝好 殿	1,000
都市不燃化促進連合会 殿	3,000	中野順次郎 殿	1,500
若田久作 殿	500	山内茂 殿	500
白石登喜男 殿	1,500	塩路惣吉 殿	1,000
佐藤正治郎 殿	1,000	日本レイヨン KK 殿	10,000
徳永正三 殿	1,000	大阪窯業 KK 殿	2,000

中央電気工業 殿	10,000
ヤマト電気商会 殿	10,000
三機工業 KK 殿	30,000
安田 則世 殿	1,000
中西 六郎 殿	3,000
工 英 社 殿	2,000
工藤 甚五郎 殿	1,000
岡村 忠一 殿	500
清水 升 殿	1,000
新晃工業 KK 殿	8,000
東洋陶器 KK 殿	10,000
田村 商会 殿	2,000
新村工務店 殿	1,000
置 塩 章 殿	5,000
関西建材会建物清掃部有志 双葉建築社 殿	500
同 上 山下商店 殿	500
日本セメント関西事務所 殿	2,000
伴 仲 信次 殿	1,000
平川 鉄工所 殿	2,000
落 藤 藤吉 殿	1,000
神 谷 治 殿	1,000
神野工業所 殿	1,000
神野 信次郎 殿	1,000
日本板硝子 殿	4,000
堀井 啓治 殿	1,000
銭 高 輝之 殿	5,000
和歌山支部	
栗 林 一馬 殿	
島村 佐次郎 殿	
布袋 国雄 殿	
児 島 正 積 殿	

梅 野 正 春 殿	
藪 本 芳 一 殿	
和歌山スレートブロック建設技術部 殿	
小 向 正 雄 殿	
前 田 保 永 殿	
加 山 増 一 殿	
今 津 吉 兼 殿	
岡 信 雄 殿	
井 崎 梁 次 殿	
宇 治 田 政 雄 殿	
山 崎 庄 一 殿	
出 村 治 作 殿	
中 西 勇 二 殿	
辻 本 善 次 殿	
堀 田 好 三 殿	
山 下 宗 一 殿	
島 田 正 己 殿	
北 山 次 男 殿	
貴 志 満 二 殿	
富 松 助 六 殿	

総 計

(申 込 分)

内 藤 資 正 殿	1,000
山 本 磯 十 郎 殿	1,000
平田タイル京都支店 殿	1,000
白 石 博 三 殿	500
岡 野 武 司 殿	500
計	4,000
総 合 計	1,640,000

23,000

252,000

1,640,000

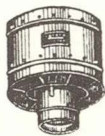
日本建築 が アメリカ建築 に及した影響 講 演 会

とき・ところ 2月11日(金)午後2時—4時 産経会館6階大阪アメリカ文化センター講堂

講 師 芦原義信氏 略 歴 昭和17年東大卒昭和27年招待留学生として渡米、エール大学で「アメリカに於ける近代家屋及その日本建築に対する関係」論文発表、ハーバード大学より「建築学士」を受け、29年ロックフェラー賞により、英国、伊太利等欧州を巡歴、昨冬帰国、建築事務所経営の傍「新建築」の編集に協力近く表記演題により東京外各地で講演。

主催 社団法人日本建築協会・大阪アメリカ文化センター 後援 産業経済新聞社

特許第一五三六号



カタクロ
進呈

＝特許＝
氣光式通風器
南閉式レヂスター

製造販売

大阪市西区江戸堀下通2ノ17
田辺工業株式会社
電話土佐堀④7437—9

着色オイル拭きの時代は過ぎました!

床の仕上り 艶出キントク

日本建築協会・関西建材会・会員

株式会社 ケントク 大阪市北区豊崎・産経ビル前
電話 福島④1546,3507番





会 員

高戸紀綱君の訃

会員高戸紀綱君は去る29年
11月29日逝去されました。

ここにその遺影と略歴をか
けて、謹んで哀悼の意を表し、その御冥福をお祈り
申し上げます。

略 歴

大正9年3月 日本建鉄工業KKに入社以来 スチール
サツシエ ドアーシャッターの設計と営業に従事。
昭和3年3月 同社と三機工業KKが合併するに及び三
機工業大阪支店鋼材部長として転籍。
昭和9年9月 朝日鋼材工業KK創立と同時に同社大阪
支店長に就任。
昭和14年12月 全国同業者を一元とする日本サツシエ
統制KK設立と同時に同社大阪支店長に就任。
昭和20年9月 KK三高製作所を設立、会社取締役社長
に就任、今日に及ぶ。

編 集 後 記

国家安全保障関係	417億ドル	67%
社会福祉関係	120億ドル	19%
国債利子関係	64億ドル	10%
一般行政関係	23億ドル	4%

計 624億ドル 100%

これは、アメリカの大統領予算教書からみた新年度
(1955年7月—1956年6月)の国家予算の割合である。こ
のことがどういう役割を果たすか、とくに日本はアメリカ
と行政協定・MSA協定で結ばれているので、日本の政
治経済の方向を考えてみる上にとつて、アメリカの国家
予算にも関心をもたざるをえない。

公営住宅三カ年計画は本年度より第2期に入るが、第
1期の実績は約69%であった。本年度は少なくとも29年度
(126億)の倍以上にふやすことが必要であろう。金融
公庫による融資住宅も29年度の1.5倍以上でなければ、
年間6万戸すら確保することはむづかしい。その他官公
庁の補助による融資住宅があるが、これも前年度の倍以
上でなければ意味をなさない。民間自力建設においても
最近の年間16万戸合を大巾に引上げるには、税法の改正
も必要であろうし、住宅投資がpayするような経済の
しくみにかえなければできないことだろう。

ところで、先程のアメリカの国家予算の意味するもの
が、日本の経済にどういう役割を与えていくかである。
今年は住宅建設が大いに期待されているが、この住宅建

設とアメリカの意味するものが、どういう関係をもつ
てくるかはここではふれない。が少くとも、住宅建設は
MSA体制にしばられないで、大いに促進してもらいた
い。

両手に花という態ばり—からいばりはやめてほしいと思
う。

本号は、日本における建築的伝統とはどういうものか
を特集とした。西山・白木・外村・森田諸先生から玉稿
をえたことをよこんでいる。厚く感謝致します。作品
作風は、グリーンビル、兵庫水産会館、大沢商会、船岡町
役場をけいさいした。御協力いただいた関係者に紙上よ
りお礼申し上げます。「建築の眼」「紫煙室」も油がのつてき
たと思うが、会員諸兄の御感想をぜひお聞かせ願いたい

—会員の声をのぞむ—

「建築と社会」誌に会員のいつわらざる声をのせて
よい機関誌にしていきたいと思つています。下記の
要領で原稿をお送り下さい。字数400字。

1. 職場の便り。2. 感想。3. 雑誌への批判。4. 建築
界の社会について。5. 建築協会への御意見。

建 築 と 社 会

第36輯 第1号

売価1部100円(送料共)

昭和29年12月25日印刷・昭和30年1月1日発行

編集発行人 沖 田 誠 一

発 行 所 社団法人 日本建築協会
大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電 話 北 浜 ☎1334〜9 番
振替口座大阪39975番

大 阪 市 北 区 堂 山 町 6 6
印 刷 者 網 野 栄

大 阪 市 北 区 堂 山 町 6 6
印 刷 所 株式会社研文社 電話重信☎2056番

次 号 予 告

2月号は「コンクリート特集」として、1. PSコ
ンクリート設計 2. ビアノ線 3. メタルフォーム
4. 簡易試験法 5. スライドフォームの記事をのせま
す。「作品作風」は、北電話局、愛知県市町村会館
京都五条保健所、西成区役所をけいさい予定。「技
術講座」はとくにエアコンデショニングの解説記
事を集録。

正訂先務業職住所簿名員会

個人会員

〔ア〕

P19 安 長 重 正

P20 浅 江 忠三郎

P20 明 石 早 苗

〔イ〕

P22 井戸田 国 松

P25 石 川 修

〔ウ〕

P79 馬 澄 勝 夫

P118 上 野 喜重郎

〔カ〕

P40 河 村 竜 一

P40 河 野 通 治

P119 河 合 次 郎

P36 加 藤 忠

〔シ〕

P52 守 随 乙 作

〔タ〕

P56 田 中 信 夫

P59 武 内 富 雄

P96 高 江 古

P60 立 花 勝 利

P57 田 村 郁 夫

P57 多 田 久 男

P60 玉 置 憲 造

P57 高 木 栄 一

〔ツ〕

P62 恒 岡 俊 行

P62 角 尾 篤 彦

P61 津 田 政 夫

P61 都 藤 希八郎

〔ハ〕

P122 春 井 武 男

〔ホ〕

P78 宝 来 佐市郎

P78 宝 来 一 郎

正

明成建設KK (堀川4750)

近畿建設KK (土佐堀2580)

東洋紡績浜松工場営繕課
浜松市西伊馬町 同社内

井戸田建築設計計算事務所
東京都渋谷区原宿3の285 電青山㊟3658

天王寺区茶白山町111

阪本紡績KK

泉南郡西信達村岡田 大阪紡績社宅

南区日本橋筋3の8

宝塚市川面武庫川通2の23

八幡市清納町一丁目 大林組社宅

大和建設株式会社
西宮市鳴尾町小松島居前三四

香川県小豆郡洲崎村 東洋紡社宅

朝日機材KK 電㊟7516

昭8
神高工 東区北浜5丁目13 日建設計工務KK

都島第2工業高等学校建築科長

京都市伏見区深草東伊達町西部

和歌山県日高郡美浜町和田3106

京都市上京区北野紅梅町53

多田建設KK

堺市六条通2丁目17

西区京町堀通5の14
KK精建社 ㊟1949

静岡市安東三の一三八

阿倍野区相生通り二の六一

岡山市上伊福清心町
大林組工事々務所

神戸大学施設課

西宮市六満寺町七七、土建会館内

川西市寺畑字中尾14の7

神戸市灘区船寺町1の16

誤

明成建設KK社長

北区滝川町30 近畿建設KK (堀川3442)

東洋紡績津工場
三重県三重郡桶町 同社内

井戸田建築設計事務所
名古屋市外山田村平田78

北区梅ヶ枝町203 富士建築工務KK

貝塚市南上町1154

生野区猪飼野西3の63 (天王寺18)

宝塚市川面池田方33

八幡市黒崎西筒井 大林組住宅

森工務店
西宮市戸田町一二

北区堂島浜通1 東洋紡営繕課
伊丹市天津藤ノ木 東洋紡社宅

朝日機械KK 京橋1093

都島工業高等学校建築科長

東京都新宿区三栄町二三の四

和歌山県日高郡和田村3106

左京区下鴨下川原町53

昭和建設KK

堺市賑町4の67

静岡市西千代田町四六

阿倍野区晴明通り一の四六

大林組西条工事々務所

尼崎市長州々末1 尼崎工業高等

兵庫県有馬郡長尾村宅原八三四

神戸市灘区船寺通1の16

尼崎市昭和通2 大林組工事々務所

〔マ〕

P122 前田 佳 稔

P81 松下 快 治

〔ミ〕

P83 水 谷 豊次郎

P83 水 谷 正 男

〔モ〕

P86 森 浩

〔ナ〕

P66 中 原 茂

P66 中 原 忠 衛

P64 中 口 精 二

〔ニ〕

P68 仁 張 市 朗

P68 西 島 勇

P121 西 沢 清

〔ヤ〕

P88 柳 田 久 夫

〔ヨ〕

P92 吉 川 秀 夫

P92 吉 田 安三郎

西区北堀江2番丁1
KK殖産住宅 大阪支店

神戸市灘区篠原区町3の43

昭12 今宮工 KK竹中工務店 (本町7591)
住吉区帝塚山中5の25

昭6 関大専 倉敷市建築課長

神戸市長田区御蔵通五の三〇七

近畿地方建設局営繕部計画課長 (土佐堀15)
神戸市長田区8の1 (湊川7941)

KK大林組広島支店 (4-151)
広島市牛田町旭町1420の1

豊中市桜塚本通二丁目四九

仁張工務店

南河内郡日置荘町西44の3

兵庫県養父郡八鹿町八鹿710

尼崎市昭和通2丁目
大林組尼崎工務所

日建設工務KK

阿倍野区文の里3の105

天王寺区上本町7 上六ビル

池田市城南西町543

倉敷市建築課長

KK竹中工務店
住吉区帝塚山中5の25

神戸市長田区御蔵通五の三〇

KK大林組広島支店 (4-151)
広島市牛田町旭町1420の1

近畿地方建設局営繕部計画課長 (土佐堀15)
神戸市長田区8の1 (湊川7941)

京都市東山区八坂通上田町八一

曉建設KK取締役

堺市東浅香山町府公舎19

神戸市須磨区大手町2の133 兼吉方

南区三津寺町29 三津寺工事々務所

阿倍野区文の3の105

団 体 会 員

P 107 玉光電気工業KK

P110 仲 川 組

北区神明町10

天王寺区東高津南之町

北区富田町31

天王寺区真法院九一

会 員 名 簿 氏 名 出 身 校 電 話 番 号 訂 正

個 人 会 員

正

P22 井上 博建 関高工

P26 大伏 武芳 電(壬生)
8531-8532

P31 尾崎 義包 昭8早高工

P41 菊池庄太郎

P119 北 久一 大工大

P120 嶋本 恒雄 大阪市大

大学院

P121 高橋 正光

田辺 俊三

P73 伴 潔 電伊丹2156

P83 三島 外造

P87 森西竜太郎

P87 八木 光雄

P93 吉田政次郎

P54 鈴木 春美 昭18関工

誤

関商工

電(壬生)
三九五〇

昭9早高工

菊地庄太郎

大工大

大工大

高松 正光

塩見 俊三

電伊丹 2の56

三島 外造

森西喜太郎

八木 光男

吉田政次郎

昭19関商工

団 体 会 員

正

P99 (株)栄興商会 電 福島 1905~6
3963,7180

P101 鹿島建設(建)広島支店 電南 3485
3508,1093

P102 関西電力(株)大阪北支店 代表者 中元清次

P103 栗 原 工 業 電福島 1225~8

P135 奈良文化財研究所 所長 田沢 坦

日建設工務(建)名古屋事務所 電中局 2085
2086

P114 水野建設(株) 代表者 水野喜一郎

P114 (株)水野組 代表者 永野 俊夫

P114 (株)水島商店 代表者 水島 正男

P116 立工産業(株) 代表者 工 義直

P147 (株)間 組 電北浜 5036 追加

目次欄

P2 関城化学工業所

三田建築事務所

目次欄追加 鹿島建設株式会社

和田避雷針製作所

誤

電 福島 3933

電中 3485
3508,1093

代表者 増谷円之助

電 福島 1225~4

所長 長田沢 坦

電本局 1045

代表者 永野 俊夫

代表者 水島 正男

代表者 水野喜一郎

代表者 工 義直

開城化学工業所

三田建築事務所

●第三六集 第一号 掲載広告一覽 (掲載順)

大阪建材工業
東洋リノリウム
セメダイン
日本ドアーチエック製造
東洋陶器
ライト製作所
田中工業
久保商店
浅沼組
新工務所
安藤組
大林組
奥村組
鹿島建設
勝呂組
神崎組
熊谷組
鴻池組
郷組
佐藤工業
清水建設
島藤建設

錢高組
大成建設
大鉄工業
竹中工務店
鉄道建設興業
戸田組
間組
藤木工務店
藤田組
松村組
三井建設
長谷川組
望月組
水野建設
井上組
岡組
火曜会事務所
大阪城口研究所
大阪電気商会
桐田商会
齊久工業
齊藤省三商店

三機工業
須賀工業
西原衛生工業所
大嘉熱工業
三晃商会
建材社
高砂熱学工業
第一工業
浅海電気産業
近畿電気工事
朝陽電気
中央電気工業
東海電気土木
福昌
田中風呂製作所
中央写真
木下工務店
フタバ黒板
川岸窯業
福島産建工業
栗山板硝子店
田中屋本店
大仏組
森井厨機製作所

吉田芳雄商店
樫野石灰工業
福田源
松本金物
三高製作所
ナニワ瓦
藤本タイル
黒川化学工業所
杉田組協栄
大阪鉄工
亀井
佐村木商店
大正鉄筋コンクリート
二葉屋
東京鋼板工業
日本サツシユ
明正社
林塗装店
矢橋大理石商店
室谷商店
内外工業
井上浄夫商店
淡陶
大島応用化学工業

関西機械建材社
水島商店
明青工業写真
東邦商会
高野アスファルト
三幸商会
谷山鉄工所
福屋工業
関西ペイント
大日本硝子工業
豊南製作所
中西商店
中西瀝青産業
織本建築設計計算事務所
田村商会
汎建製作所
麻村サッシュ工業
内外土木建材社
岩元工業
日本セメント
小野田セメント
磐城セメント
宇部興産
栗原工業

奥山化工業
平田タイル
三舟窯業
不二製作所
シフカー工業所
関西三星タイル会
大新物産
玉置産業
藤森工業
日本金具製作所
浪速建材工業
油脂化工社
大阪窯業セメント
木下謹三商店
日本セメント防水剤製造所
朝日石綿工業
日本レイヨン